

全船協

会報 156号 2024年8月 夏季号



「ORIENTAL BREEZE」 八馬汽船株式会社提供



一般社団法人 **全日本船舶職員協会**

JAPAN MARITIME OFFICERS' ASSOCIATION

無料船員職業紹介所(国土交通省許可第8号)

URL <https://www.zensenkyo.com>

山友汽船株式会社

代表取締役社長 望月正信

〒650-0015 神戸市中央区多聞通2丁目1番1号
TEL (078) 371-5505 FAX (078) 371-5520
Email: into@sanyukisen.co.jp

B&S ENTERPRISE

株式会社ビーアンドエス・エンタープライズ
TEL (078) 361-6971 FAX (078) 361-6972
Email: info@bands-k.com



北星海運株式会社

代表取締役社長 加藤由起夫

〒104-0031 東京都中央区京橋一丁目1番5号
セントラルビル6階
電話 (03) 3275-5520(代) FAX (03) 3275-5575

一般社団法人 日本船長協会

会長 中村紳也

〒102-0083 東京都千代田区麹町4丁目5番地
(海事センタービル5階)
電話 (03) 3265-6641
FAX (03) 3265-8710
<http://www.captain.or.jp>

一般社団法人 海洋会

会長 関根博

〒135-0044 東京都江東区越中島2-1-6
東京海洋大学越中島キャンパス内
産学・地域連携推進機構越中島オープンラボ棟1階
電話 (03) 6458-8215
FAX (03) 6458-8214



一般社団法人

日本船舶機関士協会

会長 四方哲郎

〒102-0083 東京都千代田区麹町四丁目5番地
(海事センタービル5階)
電話 (03) 3264-2518
E-mail: me-honbu@marine-engineer.or.jp
URL <http://www.marine-engineer.or.jp>

人と海に未来を

公益社団法人 日本海難防止協会

会長 内藤忠顕

〒151-0062 東京都渋谷区元代々木町33-8
元代々木サンサンビル3F
電話 (03) 5761-6050/ E-mail: 2231jams@nikkaibo.or.jp
<https://www.nikkaibo.or.jp>

日本海事新聞

THE JAPAN MARITIME DAILY

試読・購読のお申し込みは
電話 **03-3436-3223** まで
<https://www.jmd.co.jp/>

海上の友

船員と船員家庭のタブロイド版新聞 毎月1日発行
購読料 1カ月542円(税込・送料別)

お申し込み
お問い合わせ (公財)日本海事広報協会

〒104-0043 東京都中央区湊2-12-6
電話 (03) 3552-5034 FAX (03) 3553-6580

・海技教育支援 ・奨学金
・帆船「海王丸」体験航海・海洋教室 等

公益財団法人 海技教育財団

会長 明 珍 幸 一

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-6-4
電話 (03) 3288-0991 <https://macf.jp>

ラッシング・チョッキング資材の総合サービス

株式会社 ウシオ

100th
ANNIVERSARY
since 1920

代表取締役社長 牛尾 雅英

〒652-0813 兵庫県神戸市兵庫区兵庫町2丁目3番27号
電話 (078) 652-2065 / FAX (078) 652-2070
<http://ushio-kk.co.jp>
東京/横浜/常陸那珂/名古屋/大阪/和歌山/加古川/門司/福岡/香港




目次

表紙 …… MV ORIENTAL BREEZE 八馬汽船株式会社
巻頭言『平和産業として』……………会長 広重 康成 …… 2
2024年度通常総会議事録……………事務局 …… 4
5校同窓会の皆様へ……………元会長 酒迎 和成 ……22
C号航海記（第5回）……………内海水先区水先人会水先人 会員 栗阪 肇 ……23

北から南から

富山高等専門学校 ……30
鳥羽商船高等専門学校 ……35
広島商船高等専門学校 ……42
大島商船高等専門学校 ……46
弓削商船高等専門学校 ……51
海技教育機構 ……56
赤池まさあき国政ニュース
海洋教育推進！第28回会合を酒田市で開催 ・ 商船高専5校の練習船、更新中
……………参議院議員 赤池 誠章 ……59
本部・支部だより ……事務局 ……61
賛助会員名簿 ……事務局 ……62
会費納入者名簿&新規入会者……………事務局 ……63
時事寸評・表紙写真解説・編集後記……………事務局 ……64



事務局からのお願い

会員の皆様におかれましては当協会の活動にご協力いただきありがとうございます。
転居等で住所変更が生じた場合は、ホームページの「会員用ページ」より、住所変更が
可能ですのでご利用ください。また、メール等による連絡でも結構です。

TEL:03-3230-2651 FAX:03-3230-2653

E-Mail:honbu@zensenkyo.com

ホームページ:<https://www.zensenkyo.com>

『 平和産業として 』

代表理事・会長 広重 康成



「やってみせ 言
って聞かせて さ
せてみせ ほめて
やらねば 人は動
かじ」

これは、有名な山
本五十六連合艦隊
司令長官の言葉で
す。

その山本長官は昭

和 18 年 4 月 17 日、トラック島停泊中の旗艦
「武蔵」から作戦の直接指揮に任ずるため、幕
僚を従えてラバウル基地に来ていました。

翌 18 日、前線将兵の労をねぎらうためにブー
ゲンビル島南端のブイン基地、および南方に浮
かぶショートランド島のパラレ基地に赴き日帰
りで旗艦「武蔵」に戻る予定でした。

そのスケジュールは 13 日の午後、トップシー
クレットの暗号文で打電され各基地に送信され
ています。

一式陸上攻撃機は 2 機あり、1 番機に山本長官
が乗る。2 番機は参謀長宇垣中将がそれぞれ幕僚
を従えて乗る。護衛するのは零戦 6 機。当然、選
りすぐりのパイロットが付きました。が、完全に
この電文は解読されていて米軍の P38 ライトニ
ング 16 機が襲撃し、2 番機は海面に不時着し宇
垣中将は島に泳ぎ着き死を免れたものの、長官
機はジャングルに没したのです。

海軍中枢部は暗号文がひょっとすると解読さ
れているかもしれないと、当然疑いました。長官
機と参謀長機が P38 に、しかも 16 機の大群に攻
撃されるのはあまりにも不自然だからです。と
いうのも 4 月 11 日から 16 日までの敵機飛来記
録では、11 日飛来機なし、12 日～16 日飛来機 1

機のみだったのですから。これは各島々に置か
れた電波探信儀にとらえられていた数値であり、
この探信儀をかいくぐって来襲することはあり
えないと判断されていたからです。

当然、長官一行の輸送機が敵機の攻撃を受け
る可能性は考えられず、視察行動の立案をした
航空参謀も護衛機は 6 機で十分だと考えたし、
彼以外の現地関係者もその意見に積極的に反対
する者はいなかったのです。つまり、6 機の零
戦による護衛は、いわば長官機と参謀長機に対
する儀礼にも似た意味すらあったということだ
す。

そこで、アメリカのラジオ放送で流されたニュー
ースも判断の材料にされました。それは、サンフ
ランシスコ放送のニュースでした。アメリカ海
軍省発表として「アメリカ陸軍戦闘機は、ブイン
北部で日本爆撃機 2 機、零戦（ゼロファイター）
2 機を撃墜せしめたり。我が方は、1 機を喪失せ
り」という内容でした。もし山本長官と宇垣参謀
長らの乗ったものと知っていたなら特別ニュー
ースとして大々的に発表するはずであり、それは
アメリカの前線兵士、国民を狂喜させ、戦意を高
めるに違いなかったわけですから。

なのに、そうした重大な奇襲を、きわめて簡単
に放送したことは、暗号電文は解読されていな
いと考えられたのです。

さらに暗号の乱数表も 4 月 1 日に新しい物に
変えられていたから、解読はできない、解読でき
るはずがない、という意見が司令部内の大半を
占めていたわけです。

それでも現地軍としては、長官一行が攻撃され
たのは偶然のことであるとはしたものの、念の
ため一つの試みを実行することになりました。

それは、長官機、参謀長機が視察したのと同じ

方法で南東方面艦隊司令長官草鹿任一中将が前線視察を行うように装った連絡を各方面に発して反応をみようとしたのです。

計画は司令部で練られ、視察地はガダルカナル島に近い前線基地ムンダと定められました。

司令部では、ムンダ基地等に対し、山本長官の視察したときと同じ暗号で、「南東方面司令長官が、ムンダ基地を視察す」という趣旨の偽電を、日時も添えて打電しました。その暗号電文がアメリカ側で解読されれば、アメリカ戦闘機隊は草鹿長官が乗った飛行機を待ち伏せして撃墜するはずですから。

その実行日である4月30日。高速を誇る百式偵察機が選ばれます。更にそれを護衛するのは100機近い零戦でした。乗員たちはアメリカ戦闘機が襲ってきたら、全機を撃墜させるという決意で離陸したのです。

しかし、全く敵機は姿を見せず、ラバウルに引き返すことになりました。

これで、司令部は「暗号電報による機密漏洩のいかなる微候も認められない」という趣旨の報告を行い、加えて司令部暗号長による「技術的にみて被解読のおそれは絶無である」という意見までも添えられています。

しかし、戦後アメリカ側の関係者の回想によって、暗号の解読による待ち伏せ攻撃であることが明らかにされています。ただし、どの連絡電報が解読されていたのかは明らかにはなっていませんが、少なくとも4月18日午前8時少し前に長官機がブインに接近することを解読によって察知し、長官機襲撃の計画を立てたのでした。

ここまで、やたら長々と山本五十六元帥に関する情報戦争のことを書きました。内容の殆どは文春文庫「海軍乙事件」(吉村昭 著)並びに文春文庫「山本五十六」(半藤一利 著)から引用させて頂いたものです。

最後の最後までアメリカとの戦争は回避するべきだ、三国同盟は絶対に結んではいけない、と訴え続けた山本五十六司令長官でした。

アメリカに駐在武官として赴任し、自分の目でアメリカを知っていたのですから、当たり前でしょう。



我が国は物量に関しては、戦う前から完全にアメリカに負けていました。でも情報戦でも負けていたのです。

昨年5月24日「第50回戦没・殉職船員追悼式」が日本殉職船員顕彰会主催により横須賀市観音崎公園「戦没船員の碑」において举行されました。第50回という節目の年に当たり天皇皇后両陛下もご臨席され、お言葉を述べられ、さらにご供花を賜りました。

前日は暴風雨と言えるほどの大粒の雨と横殴りの風、しかも5月なのに寒くてコートを買うべきかと迷ったほどでした。ところが当日は穏やかな晴天。浦賀水道は群青に輝いていました。大小さまざまな船が遥かに見えました。

先の大戦で分かっているだけで6万人を超える船員が亡くなられています。破壊された商船は2,500隻、850万総トンに達しました。

戦後、外地に取り残された軍人および邦人の復員・引き上げ輸送には初代帆船日本丸、海王丸やリバティ型貨物船等200隻余が従事したのですが、劣悪な船が多く、遭難による殉職が後を絶ちませんでした。

海運業は平和産業です。世界が平和でなければ絶対に成り立ちません。

今後も商船5校の存続と、我が国の海運を支えてくれる若者たちのために全船協は努力致します。

2024年度通常総会議事録

1. 開催日時 2024年6月15日(土) 14時00分～15時00分

2. 開催場所 東京都千代田区一ツ橋二丁目6-2
一般財団法人 日本教育会館(一ツ橋ホール) 会議室704号

3. 出席者 総正会員数の議決権の数 1,420名
定足数 710名
出席正会員数 602名(本人出席14名、委任状出席588名)
議決権のある出席正会員総数 730名(書面表決128名を含む)
実出席理事 8名
実出席監事 1名
理事・監事以外の実出席者 5名

実出席者氏名

① 出席理事 広重康成、菅沼延之、酒迎和成、田島孝一、松見準、加藤信一、師富潤、長谷川徹、

② 出席監事 徳嶋明宏、

③ その他の正会員出席者

飯島寿、水野博之、中山隆志、清崎哲也、相川康明

4. 議長の選出および議事録署名人の選任、定足数の報告

定刻14時司会者に任じられた加藤信一専務理事が開会を宣し、本年度もコロナウイルス等感染防止のため、通知票は委任状若しくは書面表決にて送付願っており、事前了承を依頼した。

続いて定款第17条に基づく議長の選出を諮ったところ、正会員長谷川徹氏より挙手があり、出席者の賛成多数により承認され、長谷川徹氏が議長に就任した。

長谷川徹氏が議長席に着き挨拶の後、議長が議事録署名人を選任したい旨を述べたところ立候補者がなく、議長より署名人候補として、飯島寿氏、徳嶋明宏氏の2名が推薦され、選任された。

書記には田島孝一氏を任命した。その後、田島書記から本日の通常総会は定款第18条の定足数710名を満たしている旨の報告がなされ、議長は本総会が成立した旨を宣した。

5. 物故者への黙祷

加藤専務理事より昨年度1名の物故者の報告があり、出席者全員で黙祷を捧げた。

6. 議事に先立ち、広重会長から、この一年間の活動を振り返り、5商船系高専の校内練習船代替建造の第1船新・大島丸の引渡が2023年3月に、第2船新・弓削丸の引渡が2024年3月に行われ、第3船新・鳥羽丸の起工式も行われたことなどが報告され、今後も全船協として各方面への働きかけを行っていくとして会員各位の支援をお願いする旨の挨拶がなされた。また現在全船協が置かれている厳しい状況とそれを乗り越える策を本総会に付議しているの、ご審議を賜りたい旨挨拶があった。その後、議案審議に入った。

第1号議案 2023年度事業報告(案)について

第2号議案 2023年度決算(案)について

議長は、標記の議題について、事務局に一括して説明することを求め、加藤専務理事から当期(2023年4月1日から2024年3月31日まで)における事業報告・決算について次の書類をもって説明・報告がなされた。

- ① 貸借対照表 ② 正味財産増減計算書 ③ 事業別正味財産増減(税込・累計)
④ 収支計算書 ⑤ 財産目録 ⑥ 財務諸表に対する注記

次いで徳嶋明宏監事から、当該期における監査報告書が読み上げられ、当該書類が適法に処理され、且つ適法に記載され、また理事の業務執行に関し不正行為または法令および定款に違反する事実がない旨報告がなされた。監査意見として「5 商船系高専の校内練習船の代替新造計画の支援を行い、今年度は、第2 船新・弓削丸の引渡し、第3 船新・鳥羽丸の起工式、第4 船新・若潮丸も予算獲得と着実に実を結んでいる点など、今後も継続的に支援をお願いしたい。」と特記された。

その後、議長が賛否を議場に諮り、満場一致で承認可決した。

第3号議案 役員を選任および解任について

議長は、標記の議題について事務局に説明を求めた。

加藤専務理事から、現役員は本総会をもって任期満了に伴い解任され、本総会の決議により選任することが説明された。本議案の役員候補者は、2023年度役員候補者選考委員会にて決定し2023年度第3回理事会へ報告された。

理事候補者区分富山 長谷川徹、玉川宏、区分鳥羽 菅沼延之、水野博之、区分広島 中山隆志、師富潤、区分大島 広重康成、徳嶋明宏、区分弓削 柏木実、渡部英利、区分各校 松見準、田島孝一、監事候補者区分大島 酒迎和成、区分弓削 清崎哲也が決定しています。

この結果を踏まえ、定款第19条には理事監事選任議案の決議では候補者ごとに決議すべしとあるが、総会開催前に過半数の賛成をそれぞれ得られている場合、異議がなければ一括で選任することも許容されるので一括で選任するよう提案があり、一括して理事12名、監事2名を選任したいと議長より提案したところ賛成多数により第3号議案は可決し、新役員が選任された。

被選任者は席上その就任を承諾した。

7. 報告事項

加藤専務理事から4月20日開催された理事会の決定事項について、次の報告があった。

2024年度事業計画(案) および2024年度予算(案)

議長はこれらについて質疑および意見を求め、相川康明氏より、弁護士関係の費用についての質問があり委託費支出に含まれている旨説明があり、原案通り満場一致で承認された。

以上をもって議案を終了し、菅沼延之副会長より「全船協としてこれからも船員教育支援についての問題には取り組んでいきたいので、会員の皆様のご理解とご協力をお願いします。」と閉会の挨拶が行われた後、議長は閉会を宣言し、15時00分散会した。

上記の議事の経過およびその結果を明確にするため、この議事録を作成し、定款第22条議事録の定めに従い、議長、出席正会員2名及び代表理事がこれに記名押印する。

2024年6月15日

議 長 長谷川 徹 ⑥

議事録署名人 (代表理事) 広重康成 ⑥

議事録署名人 (正会員) 徳嶋明宏 ⑥

議事録署名人 (正会員) 飯島 寿 ⑥

第1号議案

2023年度事業報告

2023年度は、新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが5月8日から「5類」に移行し、3年余り続いた国のコロナ対策は大きな節目を迎えました。ロシアによるウクライナ侵攻の長期化、中東での軍事衝突など世界情勢は混沌とし、イスラエル諸港を含め、紅海でのハイジャックなどがあり、安全な運航は大きく脅かされました。

1 公益目的支出計画事業

(1) 海事に関する調査研究（継続事業一）

HTW（Human element, Training and Watch keeping：人的因子訓練当直）調査検討に関する専門委員会に参画

○ 国際海運「2050年頃までにGHG排出ゼロ」目標に合意

～ 国際海事機関（IMO）の第80回海洋環境保護委員会（MEPC80）（7/3～7/7）の開催結果 ～
今次会合では、2018年に採択した「IMO GHG削減戦略」を改定し、国際海運からの温室効果ガス（GHG）排出削減目標を「2050年頃までにGHG排出ゼロ」へと強化しました。

(1) GHG削減戦略の改定

IMOは2018年に「GHG削減戦略」を採択し、①2030年までにCO₂排出量（輸送量あたり）40%以上削減（2008年比）、②2050年までにGHG排出量50%以上削減（2008年比）、③今世紀中なるべく早期に排出ゼロという目標を設定しています。

この「GHG削減戦略」は、2023年に改定することとなっており、2021年11月に開催されたMEPC77から改定に向けた議論が開始され、今次会合でGHG削減戦略改定版（改定戦略）の採択に向けた議論が行われました。なお、今次会合に先立ち、その前週（6月26日～30日）に第15回GHG中間作業部会（ISWG-GHG15）を開催し、以下の（2）及び（3）の議題と併せて2週間にわたり議論が行われました。

改定戦略における目標として、我が国からは、「2050年までに国際海運からのGHG排出をゼロとする」に加えて、「2040年までにGHG排出量を50%削減（2008年比）」、「2030年までにゼロエミッション燃料を5%利用」を掲げることを提案していました。

会合では、我が国を含む先進国および島しょ国は、2050年までのGHG排出ゼロを新たな目標とすべきと主張する一方、中国やブラジルをはじめとするその他の開発途上国を中心とする国々はGHG排出ゼロを達成する期限を明確にすることについて反対を主張しました。また、2030年、2040年時点での中間目標については、上記の我が国提案以外に、米国等が「GHG排出量を2030年までに37%削減、2040年までに96%削減」、EUが「GHG排出量を2030年までに29%削減、2040年までに83%削減」との提案を行う一方、中国やブラジルをはじめとするその他の開発途上国を中心とする国々は、中間目標は不要であると主張するなど大きな隔たりがありました。

我が国は、上記の我が国提案がゼロエミッション船の導入ペース等を踏まえた実現可能性の点で優れることを主張しつつ、IMOにおいて一致した野心的な目標を掲げるための合意を得るべく、精力的な議論を行いました。その結果、今次会合では、国際海運において達成を目指す目標を「2050

年頃までに GHG 排出ネットゼロ※」、「2030 年までに、ゼロエミッションの技術、燃料、エネルギー源の活用により、使用エネルギーの 10%を目指しながら少なくとも 5%をまかなう」、「2030 年までに CO₂排出量（輸送量当たり）を 40%削減（2008 年比）」とすること、併せて、これを達成するための今後の削減目安を「2030 年までに GHG 排出量を、30%を目指しながら少なくとも 20%削減」、「2040 年までに GHG 排出量を、80%を目指しながら少なくとも 70%削減」（いずれも 2008 年比）とすることを盛り込んだ「2023 IMO GHG 削減戦略」を採択することに合意しました。

※ネットゼロ：排出量から吸収量を差し引いた合計がゼロを意味する。交渉の過程において、この表現が最も適切とされた。

(2) 国際海運からの GHG 排出削減に向けた更なる対策

国際海運からの GHG 排出削減を進めるためには、化石燃料を使用する従来型の船舶からゼロエミッション燃料を使用する船舶への転換を促進するための更なる対策の導入が必要となります。2021 年 6 月に開催された MEPC76 において、GHG 削減のための更なる対策（中長期対策）についての検討を進めるための作業計画が合意され、MEPC77以降、具体的な検討が行われており、今次会合までに提案された対策の中を踏まえて更に開発すべき対策の評価と選択を行い、その後最終化に向けた検討を進めることになっていました。

我が国は、化石燃料戦に対して課金（fee）し、ゼロエミッション船に対して還付（rebate）を行う課金・還付（feebate）制度を提案しています。そのほか、各国・団体からいろいろな制度（課金・燃料油規制・等）が提案されています。

(3) LCA ガイドライン

船舶燃料について、ライフサイクル全体、すなわち、燃料の製造から船上における燃焼までの全ての GHG 排出量を評価するための手法を定めたガイドライン（「LCA（Life Cycle Assessment）ガイドライン」）の策定にむけ、MEPC78以降、通信部会による作業が行われてきました。

今次会合では、通信部会が策定した LCA ガイドラインが採択されるとともに、製造方法に応じた各種燃料のライフサイクル全体の GHG 排出量のデフォルト値の策定等、ガイドラインのさらなる改良にむけて継続的な検討が必要であることが合意され、通信部会を新たに設置し引き続き議論を行うことが合意されました。

(4) バイオ燃料に関する DCS、CII における取扱い

燃料消費実績報告制度（DCS）および燃費実績格付制度（CII）における、バイオ燃料の取扱いについて審議され、LCA ガイドラインがさらに改良されるまでの暫定的な取り扱いとして、持続可能なバイオ燃料であることを国際的な認証枠組により認証されたものについては、その二酸化炭素排出係数を、ライフサイクル GHG 強度に低位発熱量を乗じた数値とすることができることとする指針を承認しました。

(5) 燃料消費実績報告制度（IMO DCS）

燃料消費量等の運航データの収集および報告を義務づける IMO DCS について、その収集・報告項目の拡充が提案され、これまでの会合において具体的な追加項目等について議論してきました。

今次会合の結果、IMO DCS の報告項目について、燃料消費量を主機・補機等別に報告すること

や、総貨物輸送量を追加すること等が合意され、MARPOL 附属書 VI 付録 IX の改正案が承認されました。この改正案はMEPC81 で採択される予定です。

(2) 船員・商船教育支援（継続事業—2）

ア 5 商船系高等専門学校の校内練習船の代替新造計画の支援活動について

今年度においても、代替新造計画の実施について関係省庁および国会議員の先生方に陳情を行った。

第1 船となった新・大島丸は、2023 年 3 月 13 日に三菱重工・下関造船所江浦工場において引渡式が行われ、3 月 19 日大島商船高等専門学校において竣工記念式典を挙行し、多くの関係者にご列席いただき、祝賀会も催された。

第2 船となる新・弓削丸は、2023 年 10 月 6 日、三菱重工マリタイムシステムズ株式会社において命名・進水式および祝賀会（広重会長、柏木理事出席）が挙行され、2024 年 3 月 12 日に竣工引渡し、3 月 23 日に弓削商船高等専門学校にて竣工記念式典（広重会長、柏木理事出席）が挙行され、盛山正仁文部科学大臣、赤池雅章参議院議員、谷口功国立高等専門学校機構理事長ほか多くの関係者にご列席いただき、祝賀会も催された。

第3 船は新・鳥羽丸で、2023 年 12 月 8 日三菱重工・玉野工場において起工式が行われた。同船は2024 年 10 月に同造船所で進水し、2025 年 3 月に竣工引渡しの予定である。

第4 船は新・若潮丸となることが文部科学省の2024 年度予算要求・要望額となっている。

イ 5 商船系高等専門学校商船学科長懇談会の開催について

○ 2023 年 11 月 1 日に千代田区神保町区民館にて開催した。

弓削商船高等専門学校の新・弓削丸の建造の進捗状況について、2024 年 3 月竣工引渡しとの説明があった。全船協の支援活動について謝辞があった。

全船協より、9 月卒業生の入会についてお礼を申し上げ、さらに新入生の準会員入会についても支援の御願いをした。

商船学科への募集問題および TOEIC 点数向上についての意見交換があった。

全船協からは、2023 年度の 5 校への寄附金は 3 月理事会の承認を得て、予定通り実行することを伝えた。（2024 年 3 月 21～27 日、各校 50 万円 × 5 校合計 250 万円寄附を実施した）

ウ 5 商船系高等専門学校校長懇談会の開催について

○ 2024 年 1 月 25 日に千代田区神保町区民館にて開催した。

議題に関しては商船学科長懇談会と略同じ内容であったが、寄附金の具体的な使用状況や今後の使用計画について、意見交換を行った。全船協からは、9 月卒業生の入会についてお礼を申し上げ、さらに新入生の準会員入会についても支援の御願いをした。

エ 独立行政法人国立高等専門学校機構主催の次世代の海洋人材育成に関する協議会に委員として参画した。5 校の担当校から「国立高専における次世代の海洋人材の育成に関する取組」と題して、①海事・海洋分野の人材育成事業の実施 ②海事・海洋の魅力を伝える広報活動の実施についての活動報告・活動計画の説明があった。やはり、出口と連携したキャリア教育実践および商船学

科入学に向けての活動が非常に重要であることを再確認した。

オ 次世代の海洋人材の育成に関する事業—海事キャリア教育セミナーについて

次世代の海洋人材の育成プロジェクトの一環として、2023年11月30日に弓削商船高等専門学校で開催された「海事キャリア教育セミナー」に講師を派遣した。

（「海運業界でのブローカーの役割（海事クラスターの一員として）と世界の船員事情」と題して講演した）

カ 商船系高等専門学校評議委員会（富山高専及び大島商船高専）に理事が参画した。

キ 2023年7月17日（月）海の日にて第58回全国商船高等専門学校漕艇大会が大島商船高等専門学校にて開催された。（広重会長出席）全船協より25万円を寄附した。

ク 5商船系高等専門学校商船学科卒業式は、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行されたことに伴い来賓を招いて行われ、各校同窓会長に会長代理出席とし、本協会会長祝辞および優秀学生の表彰状と記念品を贈呈した。

ケ 独立行政法人海技教育機構所属の練習船の図書整備のため、「全船協文庫」として10万円を寄贈した。

コ 日本海洋少年団との連携について、海洋少年団連盟本部および国交省海事局の要請により、今年度も引き続き、全船協の会員を姫路海洋少年団の指導員として派遣した。

サ 海洋教育推進プロジェクトについて

今後の海洋立国日本を担う人材の確保・育成を図るため、初等中等教育等における海洋教育の充実を図り、高等教育と体系的につなげる方策を検討するとともに、海洋教育に関し、関係行政機関、教育・研究機関、民間企業等の活動が有機的な連携を図り、海洋教育を具体的に推進していくため、参議院議員赤池雅章議員が発起人となり平成28年に発足した、海洋教育推進プロジェクトの第27回会合が開催されるにあたり、全船協にも参加してほしいと依頼があり、加藤専務理事が参加した。（事務局：国土交通省海事局総務課）

（3）図書発行／講演会／会誌発行（継続事業—3）

ア 会報の発行

会報「全船協」第152号、第153号、第154号を正会員、準会員、賛助会員、5校商船学科生5年生全員と商船学科関係職員および海事関係団体等に発送した。

イ ホームページ

全船協の対外的な活動や来訪者を逐一掲載し、積極的な発信を行うとともに、求人情報を掲載

する等、無料船員職業紹介所の機能としても活用した。

(4) 無料船員職業紹介事業（継続事業—4）

	航海士	機関士	合計
求人	内航 5 外航 0	内航 4 外航 0	9
求職	内航 0 外航 0	内航 0 外航 0	0
成立	0	0	0

2 収益事業(施設管理事業)

全船協所有の千代田三信ビル 8 階を東芳紙業株式会社と建物賃貸借契約を締結し、同じく全船協所有の神戸三宮ベンチャービル 426 号を商船三井ドライバルク株式会社と建物賃貸借契約を締結し、収益事業として安定収入を得ている。

3 正会員、準会員および賛助会員の獲得と会の活性化

(1) 正会員と準会員の入会

ア 2023 年 9 月卒の 5 校商船学科卒業生の入会は 121 名（前年比+2 名）であった。

近年の入会減少対策として機会あるごとに 5 校校長・商船学科長に積極的な入会促進を依頼したことおよび各校同窓会の協力の結果である。

イ 昨年に引き続き 4 月の新入学生に有料の準会員の入会を促進し、5 校合計で 150 名の入会があった。2023 年度の 5 校商船学科長懇談会・校長懇談会において、各校の支援協力を受け新入学生の勧誘を行った。

(2) 賛助会員の入会

ア 会長、副会長、専務理事および各理事が、外航海運、内航海運、海運関連、港湾運送、船舶管理等々の企業および全国の水先人会等を訪問し積極的に勧誘した結果、現在 42 社となった。

なお、水先人会の加入は今年度も実現しなかった。

会員数は下表の通りである。

推 移	会 員	内 訳	正 会 員				賛 助 会 員		準 会 員
			本 年 度		前 年 度		個 人	団 体	本 年 度
			1,314		(1,214)		0	40	461
入会者	入会		121		119			2	150
		再入会		121		119			
退会者	会費未納資格喪失者 退会者								
			14	14	11	11			1
物故者			1	1	8	8			
			1,420		(1,314)		0	42	610

(3) 協会の活性化

- ア ホームページに本部の活動状況を逐一掲載して、積極的に発信することに努めた。
- イ 2023年5月21日に第40回横浜港カッターレース大会が開催され、大会実行委員会副委員長として参加した。(広重会長・加藤専務理事出席、大会支援員(10名)派遣)
- ウ 委員会活動
 - ① 企画財政委員会を開催し、予算の執行および事業計画について検討した。
 - ② 広報HP委員会、会報発行の校正・編纂作業を行った。

4 管理部門の活動

- (1) 執行役員会を開催し、協会の運営についての透明性および意思疎通を図った。
- (2) 業務執行役員全員は無報酬とするとともに事務所経費の削減に努めた。
- (3) 資産の運用に関しては運用先から適宜情報を入手し保全に努めた。
- (4) 通常総会：2023年度通常総会は6月10日日本教育会館にて、新型コロナウイルス感染防止対策を徹底し開催し、懇親会は中止とした。
- (5) 理事会：2023年度は第1回(4月22日)、第2回(10月21日)、第3回(3月16日)まで対面形式での理事会を開催した。
- (6) 監査 会計・業務監査を実施した。

5 海事団体への参画

(1) 役員・委員に就任している関連団体

- | | |
|----------------------------------|-----------------|
| ア (公財) 日本殉職船員顕彰会 | 理事・監事・催事委員・実行委員 |
| イ (公社) 日本海難防止協会 | 理事 |
| ウ (公財) 海技教育財団 | 理事・評議員・奨学生選考委員 |
| エ (一財) 海技振興センターHTW 調査検討に関する専門委員会 | 委員 |
| オ (公社) 日本海洋少年団連盟 | 役員選考委員会委員 |
| カ (公財) 帆船日本丸記念財団 | 評議員 |
| キ (一社) 横浜港振興協会・カッターレース実行委員会 | 副委員長 |

(2) 5月24日(水)神奈川県立観音崎公園「戦没船員の碑」で、第50回戦没・殉職船員追悼式が行われた。本年は50回目の記念式典として戦没・殉職船員の御霊の鎮魂とご遺族の長年の労苦に応えるため、天皇・皇后両陛下のご臨席を賜った。式典には広重会長等参列した。また、催事委員・実行委員として式典を支援協力した。

以上

貸借対照表

2024年 3月31日現在

一般社団法人 全日本船舶職員協会
法人【新基準】

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	11,214,773	12,316,670	△ 1,101,897
前払金	386,737	472,355	△ 85,618
流動資産合計	11,601,510	12,789,025	△ 1,187,515
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
定期預金	129,885,040	129,885,040	0
基本財産郵便貯金	3,066,159	3,066,159	0
投資有価証券	100,000,000	100,000,000	0
基本財産合計	232,951,199	232,951,199	0
(2) 特定資産			
修繕積立預金	828,697	1,428,697	△ 600,000
特定資産合計	828,697	1,428,697	△ 600,000
(3) その他固定資産			
収益事業準備基金	13,563,747	13,563,747	0
建物	29,540,136	30,527,610	△ 987,474
建物附属設備	1,008,242	477,542	530,700
ソフトウェア	693,000	1,001,000	△ 308,000
什器備品	57,750	70,349	△ 12,599
土地	61,976,936	61,976,936	0
保証金	544,500	544,500	0
その他固定資産合計	107,384,311	108,161,684	△ 777,373
固定資産合計	341,164,207	342,541,580	△ 1,377,373
資産合計	352,765,717	355,330,605	△ 2,564,888
II 負債の部			
1. 流動負債			
前受金	719,291	721,291	△ 2,000
前受会費	730,000	600,000	130,000
未払法人税等	852,800	1,057,200	△ 204,400
流動負債合計	2,302,091	2,378,491	△ 76,400
2. 固定負債			
受入保証金	6,594,000	6,594,000	0
固定負債合計	6,594,000	6,594,000	0
負債合計	8,896,091	8,972,491	△ 76,400
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	233,870,000	233,870,000	0
(うち基本財産への充当額)	232,951,199	232,951,199	0
2. 一般正味財産			
一般正味財産合計	109,999,626	112,488,114	△ 2,488,488
(うち特定資産への充当額)	828,697	1,428,697	△ 600,000
正味財産合計	343,869,626	346,358,114	△ 2,488,488
負債及び正味財産合計	352,765,717	355,330,605	△ 2,564,888

zensen05 ZENSEN05-PC

2024年 4月18日 09:19:44

事業別正味財産増減計算書

令和05年4月1日から令和06年3月31日まで

一般社団法人 全日本船舶振興協会
法人【新基準】

税込
累計
単位：円
税込
累計
単位：円

科目	法人会計	海事調査事業	船舶教育	会誌発行・海事に関する圖書の出版	就職紹介	研修事業計	業務委託事業	施設管理事業	共通	海事教育	共通(その他)	合計
Ⅰ 一般正味財産増減の部												
1. 経常増減の部												
(1) 経常収益												
基本財産運用益	5,172,006	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5,172,006
基本財産等配当	5,172,006	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5,172,006
特定資産運用益	127	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	127
特定資産受利息	127	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	127
受取入金金	110,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	110,000
受取入金金	110,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	110,000
受取金	3,226,200	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3,226,200
正会員受取金	4,052,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4,052,000
賛助会員受取金	2,150,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,150,000
紙年会費	504,200	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	504,200
電子年会費	1,520,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,520,000
事業収益	0	0	0	499,000	0	499,000	0	3,162,492	0	0	0	3,662,492
会館広場収入	0	0	0	499,000	0	499,000	0	0	0	0	0	499,000
施設管理収益	0	0	0	0	0	0	0	3,162,492	0	0	0	3,162,492
雑収益	28,304	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	28,304
受取利息	2,388	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,388
雑収益	25,415	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	25,415
経常収益計	13,526,627	0	0	499,000	0	499,000	0	3,162,492	0	0	0	20,189,129
(2) 経常費用												
事業費	0	2,505,064	5,914,957	4,507,255	1,794,793	14,622,069	0	3,345,524	0	0	0	18,467,603
船費交通費	0	521,426	991,924	651,358	465,742	2,740,471	0	0	0	0	0	2,740,471
通信運送費	0	83,827	109,423	1,177,499	82,237	1,452,606	0	0	0	0	0	1,452,606
雑損雑費	0	64,119	64,119	64,119	64,119	256,476	0	1,056,774	0	0	0	1,212,250
燃料費	0	0	0	0	0	0	0	997,424	0	0	0	997,424
什器備品減価償却	0	2,519	2,519	2,515	2,519	10,076	0	0	0	0	0	10,076
消耗什器備品	0	61,600	61,600	61,600	61,600	246,400	0	0	0	0	0	246,400
建物附属資産償却	0	0	0	0	0	0	0	69,200	0	0	0	69,200
印刷製本費	0	5,626	50,646	609,446	5,626	970,244	0	0	0	0	0	870,244
機器賃借料	0	220,542	220,542	220,542	220,542	862,169	0	0	0	0	0	862,169
新聞図書費	0	239,208	0	7,280	0	246,468	0	0	0	0	0	246,468
光熱水料費	0	30,250	30,250	30,250	30,250	121,000	0	0	0	0	0	121,000
賃借料	0	396,327	386,327	396,327	386,327	1,545,248	0	0	0	0	0	1,545,248
保険料	0	3,424	3,424	3,424	3,424	15,696	0	0	0	0	0	15,696
租税公課	0	0	0	0	0	0	0	905,000	0	0	0	905,000
雑費	0	0	0	0	0	0	0	1,632,760	0	0	0	1,632,760
支払負担金	0	300,000	0	0	0	200,000	0	0	0	0	0	200,000
寄付金	0	100,000	0,050,000	0	0	3,150,000	0	0	0	0	0	3,150,000
委託費	0	0	61,400	11,000	62,800	156,200	0	0	0	0	0	156,200
印刷費	0	540,785	620,612	910,280	471,613	2,745,292	0	0	0	0	0	2,745,292
雑費	0	0	100,000	44,000	0	144,000	0	0	0	0	0	144,000
管理費	4,674,679	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4,674,679
会費	239,510	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	239,510
船費交通費	1,109,067	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,109,067
通信運送費	265,893	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	265,893
雑損雑費	64,123	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	64,123
什器備品減価償却	2,522	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,522
消耗什器備品	61,600	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	61,600
燃料費	39,050	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	39,050
賃借料	2,347	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,347
印刷製本費	72,190	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	72,190
機器賃借料	220,542	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	220,542
光熱水料費	30,250	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	30,250
賃借料	513,494	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	513,494
保険料	20,704	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20,704
租税公課	1,200	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,200
委託費	1,222,406	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,222,406
機器賃借料	69,200	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	69,200
雑費	706,671	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	706,671
経常費用計	4,674,679	2,505,064	5,914,957	4,507,255	1,794,793	14,622,069	0	3,345,524	0	0	0	22,042,232
経常増減差額	3,961,958	-2,505,064	-5,914,957	-4,008,255	-1,794,793	-14,123,069	0	4,217,958	0	0	0	-842,153
経常利益等計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	3,961,958	-2,505,064	-5,914,957	-4,008,255	-1,794,793	-14,123,069	0	4,217,958	0	0	0	-842,153
2. 経常外増減の部												
(1) 経常外収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	3,961,958	-2,505,064	-5,914,957	-4,008,255	-1,794,793	-14,123,069	0	4,217,958	0	0	0	-842,153
法人住民税等	792,525	0	0	0	0	0	0	852,300	0	0	0	1,645,225
当期一般正味財産増減額	3,169,433	-2,505,064	-5,914,957	-4,008,255	-1,794,793	-14,123,069	0	3,465,158	0	0	0	-2,438,438
一般正味財産期首残高	229,005,144	-21,740,678	-56,596,465	-34,947,098	-16,029,552	-129,205,795	329,627	15,021,525	-2,182,363	172,947	-579,491	112,468,114
一般正味財産期末残高	227,174,567	-24,245,742	-62,401,422	-38,955,353	-17,824,345	-143,426,664	329,627	13,496,683	-2,182,363	172,947	-579,491	109,999,626
Ⅱ 指定正味財産増減の部												
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	222,670,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	222,670,000
指定正味財産期末残高	222,670,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	222,670,000
Ⅲ 正味財産期末残高	471,044,567	-24,245,742	-62,401,422	-38,955,353	-17,824,345	-143,426,664	329,627	13,496,683	-2,182,363	172,947	-579,491	242,669,626

令和 6年 4月 18日 09:24:29

zenaen05_ZEMSEN05-PC

財産目録			
2024年 3月31日現在			
一般社団法人 全日本船舶職員協会			
法人【新基準】			(単位: 円)
貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)			
現金	手元保管	運転資金として	66,890
預金	普通みずほ銀行 麹町支店		3,940,172
	普通みずほ銀行 虎ノ門支店		2,032,994
	普通三菱UFJ銀行 麹町中央支店		4,704,980
	普三井住友銀行神戸 三井住友飯田橋		108,510
	郵便貯金本部		10,821
	郵便振替貯金		91,444
	前払金		258,962
			386,737
流動資産合計			11,601,510
(固定資産)			
基本財産			
定期預金			129,885,040
基本財産定期預金 (指定)			79,885,040
三井住友飯田橋定期 定期			50,000,000
基本財産郵便貯金			3,066,159
郵便定期預金			3,000,000
郵便貯金			66,159
投資有価証券			100,000,000
投資有価証券(指 定)			100,000,000
特定資産			
修繕積立預金			328,697
修繕積立預金			328,697
その他固定資産			
収益事業準備基金			13,563,747
城南信用金庫			2,244,957
みずほ定期預金 1			3,000,000
みずほ定期預金 2			3,000,000
みずほ定期預金 3			3,043,790
みずほ定期預金 4			2,275,000
建物			29,540,136
本部			27,307,633
支部			2,232,503
建物附属設備			1,008,242
ソフトウェア			693,000
什器備品			57,750
土地			61,976,936
本部			46,920,000
支部			15,056,936
保証金			544,500
固定資産合計			341,164,207
資産合計			352,765,717
(流動負債)			
前受金			719,291
前受会費			730,000
未払法人税等			852,800
流動負債合計			2,302,091
(固定負債)			
受入保証金			6,594,000
固定負債合計			6,594,000
負債合計			8,896,091
正味財産			343,869,626

zensen05 ZENSEN05-PC

2024年 4月18日 09:19:51

財務諸表に対する注記
2024年4月31日現在

1. 重要な会計方針

「公益法人会計基準」（平成20年4月11日 改正平成21年10月16日内閣府公益認定等委員会）を採用している。

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

1. 満期保有目的の有価証券 償却原価法(定額法) によっている。

2. 満期保有目的以外の有価証券

期末日の市場価格等に基づく時価法（売却原価は移動平均法により算定）によっている。

(2) 固定資産の減価償却の方法

建 物……定額法によっている

什器備品……定額法によっている

(3) 引当金の計上基準

退職給付引当金……期末退職給与の要支給額に相当する額を計上している

(4) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位 円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
基本財産定期預金	129,885,040	0		129,885,040
基本財産郵便貯金	3,066,159	0		3,066,159
基本財産定額貯金	0			0
投資有価証券	100,000,000	0		100,000,000
小 計	232,951,199	0	0	232,951,199
特定資産				
修繕積立預金	1,428,697		600,000	828,697
事業安定化基金	0			0
小 計	1,428,697	0	600,000	828,697
合 計	234,379,896	0	600,000	233,779,896

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産				
基本財産定期預金	129,885,040	129,885,040		
基本財産郵便貯金	3,066,159	3,066,159		
投資有価証券	100,000,000	100,000,000		
小 計	232,951,199	232,951,199	0	0
特定資産				
修繕積立預金	828,697		828,697	
事業安定化基金	0			
小 計	828,697	0	828,697	0
合 計	233,779,896	232,951,199	828,697	0

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建物	49,807,630	20,267,494	29,540,136
ソフトウェア	2,418,148	1,725,148	693,000
建物附属設備	1,100,000	91,758	1,008,242
什器備品	429,450	371,700	57,750
合 計	53,755,228	22,456,100	31,299,128

5. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益は、次のとおり。

科 目	帳簿価額	時価	評価損益	参考評価情報
基本財産				%
三菱UFJ証券PRD債	100,000,000	95,842,000	-4,158,000	95.842%
合 計	100,000,000	95,842,000	-4,158,000	

2024年4月19日

一般社団法人 全日本船舶職員協会
会長 広重康成 殿

監事 徳嶋明宏
監事 文谷嘉宏



監査報告書

我々は、2024年4月19日に2023年4月1日から2024年3月31日までの2023年度における会計及び業務並びに公益目的支出計画の実施状況について監査を行いました。

その結果について次の通り報告致します。

1 監査方法の概要

1. 会計監査については、会計帳簿及び関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて計算書類及びその附属書類の明細の正確性を検討しました。
2. 業務監査については、理事会及びその他の書面決議をメールにて業務の報告を受け、関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて業務執行の妥当性を検討しました。
3. 公益目的支出計画実施報告書については、事業報告・計算書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて公益目的支出計画実施状況の妥当性を検討しました。

2 監査意見

1. 計算書類および附属明細書の内容は、事実であると認めます。
2. 事業報告およびその附属明細書の内容は、事実であることを認めます。
3. 理事の職務遂行に関する不正行為または法令および定款に違反する重大な事実はないものと認めます。
4. 公益目的支出計画実施報告書は、法令または定款に従い法人の公益支出計画の実施の状況を正しく示していると認めます。
5. 評価すべきは、かねてより行っている5商船系高専の校内練習船の代替新造船計画支援が、今年度は第2船となる『弓削丸』の引き渡し、第3船の『鳥羽丸』の起工式の挙行、『新若潮丸』の予算獲得と着実に実を結んでいる点である。引き続き継続的な支援をお願いしたい。

資料—3

2024年度理事立候補者（番号に○は推薦）

番号	区分	氏名	抱負又は推薦理由（概要）
1	富山	長谷川 徹	学生の応援団として頑張ります。
2	富山	玉川 宏	専門の日本人船舶職員の育成に微力ながら貢献したい。
3	鳥羽	菅沼 延之	陸上生活が長かったため、現状の海運界、学校のシステムについてよくわからない事多々ありましたが、最近になって理解できるようになりました。本会の組織力を活用して一助になるよう努めます。
4	鳥羽	水野 博之	全船協の事業を全面的にサポートしていきたい。
⑤	広島	中山 隆志	推薦：校友会（同窓会）会長に推薦 2024年5月の総会で決定予定。
⑥	広島	師富 潤	推薦：全船協の業務および海運業界に精通している。
7	大島	徳嶋 明宏	今後も全船協の運営・活動にご協力いたしたく存じます。
8	大島	広重 康成	商船5校の存続を維持し、海事立国日本のために尽くします。
9	弓削	柏木 実	商船学校の120有余年に亘る諸先輩が大変苦勞し、培ってこられた素晴らしい現状の教育制度を堅持し、船舶運航技術のノウハウを絶やすことなく次世代へと伝承していくのが全船協の使命であると考えます。
10	弓削	渡部 英利	現行の商船高専教育制度の堅持を強く訴える。
11	各校	松見 準	日本で唯一の船舶職員のための公益団体を守っていききたい。商船高専の卒業生の就職先で内航が目立つようになり、業界の深刻な日本人船員不足の問題については協会でも真剣に議論されるべき状況と考えます。協会の歴史と定款を尊重しながら、現在の日本人船員の日線で問題解決をはかれる組織を目指したいと思えます。
12	各校	田島 孝一	全船協の発展に尽くしたい。

2024年度監事立候補者

番号	区分	氏名	抱負又は推薦理由（概要）
1	大島	酒迎 和成	日本人海技士の育成のため、商船学科振興に全力を傾注します。
2	弓削	清崎 哲也	未来の船員に夢と希望を

資料-1

2024年度 事業計画(案)

2024年度事業計画は、公的命題である年間14,510,900円を維持する公益目的支出計画事業を実行することが必要不可欠である。2024年度の事業活動収入概算は、①会費（正会員・準会員・賛助会員）収入、②施設管理（不動産賃貸）収入および、③基本財産運用収入等の合計約2200万円である。従って、収支均衡を基本とし、公益目的支出計画事業（継続事業1～4）およびその他事業を下記の通り策定した。

なお、この事業計画に基づく2024年度予算案は別紙の通りである。

1 公益目的支出計画事業

(1) 海事に関する調査研究（継続事業-1）

- ア HTW（人的因子、訓練及び当直小委員会）調査検討に関する専門委員会へ参加して本協会の意見を述べるとともに、情報を収集して必要事項を海事技術者に発信する。
- イ STCW条約等の教育訓練に係る提案に対して本協会の意見を述べるとともに教育機関と共有の上、船員教育に役立てる。
- ウ 日本近海における海洋資源開発、具体的SOx削減対策及び二酸化炭素削減対策並びに省エネ取組等の情報収集を行うと共に、ホームページ等で海事技術者等一般社会へ発信する。

(2) 船員教育支援（継続事業-2）

- ア 5 商船系高専商船学科支援については、5 校校長懇談会および商船学科長を中心とした商船学科振興協議会を開催して具体的な支援事業を実施する。
具体的には、学生募集対策費用および英会話教育対策費用（TOEIC受験等）の支援並びに5 校漕艇大会の支援を実施する。
- イ 独立行政法人国立高等専門学校機構における「次世代の海洋人材育成に関する協議会」の委員として参画する。
- ウ 5 校商船系高専が実施している次世代の海洋人材の育成に関する事業「海事・海洋分野の人材育成事業の実施」プロジェクトに運営委員として参画する。
- エ 海事・海洋人材によるキャリア教育「海事キャリア教育セミナー」に講師を派遣する。
- オ 商船系高専の運営評議委員会に委員として参画する。（富山高専、大島商船高専）
- カ 5 校商船学科卒業式に参列し全船協会長の祝辞を述べる。（各校出身理事代読）
- キ 日本船主協会主催 5 校商船学科への合同進学ガイダンスを後援する。（横浜および神戸等にて開催）

(3) 図書・会誌の発行および講演等（継続事業-3）

- ア 会報を年3回発行する。(新春号、春季号、夏季号)
- イ 講演会または座談会を継続して実施する。
- ウ 協会ホームページにて、会員および海事技術者等一般社会へ海事に関する最新情報を提供する。
- エ 5校への会報配付は商船学科の準会員、関係教職員へ無償配布する。
- オ 独立行政法人海技教育機構練習船の「全船協文庫」へ新刊を寄贈する。

(4) 無料船員職業紹介事業（継続事業-4）

ホームページおよび会報にて最新の求人・求職状況を海事技術者に提供すると共に若年船舶職員の転職相談等に取り組む。

2 収益事業

- ア 2018年4月1日に開始した千代田三信ビル8階部分の賃貸事業を継続する。
- イ 2021年1月1日に開始した三宮ベンチャービル4階部分の賃貸事業を継続する。

3 会員の維持拡大と会の活性化

(1) 会員の維持拡大

- ア 商船学科新入生の準会員および卒業生の正会員入会を促進する。
- イ 未入会OBの入会を促進する。
- ウ 企業・団体に賛助会員の入会を促進する。

(2) 協会の活性化

- ア 協会の活動をホームページに掲載し、本部から会員へ発信する。
- イ 日本海洋少年団連盟の活動に参画し、本協会をアピールし、5校商船学科への入学を促進する。

4 海事団体への参画

(1) 役員・委員に就任している関連団体

- ア (公財) 日本殉職船員顕彰会 理事・監事・催事委員・実行委員
- イ (公社) 日本海難防止協会 理事
- ウ (公財) 海技教育財団 理事・評議員・船員奨学生選考委員
- エ (一財) 海技振興センターHTW 調査検討に関する専門委員会 委員
- オ (公社) 日本海洋少年団連盟 役員選考委員会委員
- カ (公財) 帆船日本丸記念財団 評議員
- キ (一社) 横浜港振興協会・カッターレース実行委員会 副委員長

(以上)

2024年度予算(案)

一般社団法人 全日本船舶職員協会 法人【新基準】												税込 累計	
												単位: 円	
科目	法人会計	海事調査	商船教育	金銭発行	就職紹介	経理事業計	業務委託 事業	施設管理事	その他 事業計	共通	海事教育	共通 (その他)	総合計
1 一般正味財産増減の部													
1. 経常増減の部													
(1) 経常収益													
基本財産運用益	4,600,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4,600,000
基本財産受取利息	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
基本財産受取配当	4,600,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4,600,000
特定資産運用益	1,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,000
特定資産受取利息	1,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,000
受取入会金	91,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	91,000
受取入金金	91,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	91,000
受取会費	8,923,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8,923,000
正会員受取会費	4,239,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4,239,000
賛助会員受取会費	2,650,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,650,000
就労者会費	494,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	494,000
準会員会費	1,540,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,540,000
事業収益	0	0	0	700,000	0	700,000	0	8,000,000	8,000,000	0	0	0	8,700,000
会報広告収入	0	0	0	700,000	0	700,000	0	0	0	0	0	0	700,000
施設管理収益	0	0	0	0	0	0	0	8,000,000	8,000,000	0	0	0	8,000,000
業務委託収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取寄付金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取寄付金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
雑収益	247,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	247,000
受取利息	247,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	247,000
経常収益計	13,867,000	0	0	700,000	0	700,000	0	8,000,000	8,000,000	0	0	0	22,567,000
(2) 経常費用													
事業費	2,483,378	6,111,088	3,956,704	1,982,558	14,533,724	0	3,672,760	3,672,760	0	0	0	0	18,206,484
役員報酬	110,000	110,000	110,000	110,000	440,000	0	0	0	0	0	0	0	0
給料手当	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
福利厚生費	12,040	18,270	18,670	10,500	60,480	0	0	0	0	0	0	0	60,480
会議費	75,000	75,000	75,000	75,000	300,000	0	0	0	0	0	0	0	300,000
旅費交通費	415,854	718,947	797,500	339,475	2,271,777	0	0	0	0	0	0	0	2,271,777
通信運搬費	106,000	160,000	565,000	106,000	937,000	0	0	0	0	0	0	0	937,000
減価償却費	130,000	130,000	130,000	126,000	516,000	0	920,000	920,000	0	0	0	0	1,426,000
建物減価償却	14,000	14,000	14,000	14,000	56,000	0	920,000	920,000	0	0	0	0	976,000
2019年度減価償却	28,000	28,000	28,000	28,000	112,000	0	0	0	0	0	0	0	112,000
2020年度減価償却	80,000	80,000	80,000	80,000	320,000	0	0	0	0	0	0	0	320,000
備品原価償却	8,000	8,000	8,000	4,000	28,000	0	0	0	0	0	0	0	28,000
印刷製本費	8,000	8,000	586,000	8,000	610,000	0	0	0	0	0	0	0	610,000
機器賃借料	222,000	222,000	232,000	211,000	887,000	0	0	0	0	0	0	0	887,000
新聞図書費	323,000	7,000	0	0	330,000	0	0	0	0	0	0	0	330,000
光熱水料費	27,720	27,720	27,720	27,720	110,880	0	18,000	18,000	0	0	0	0	128,880
賃借料	371,364	371,364	371,364	371,364	1,485,456	0	0	0	0	0	0	0	1,485,456
保険料	0	0	0	0	0	0	98,000	98,000	0	0	0	0	98,000
租税公課	0	0	0	0	0	0	753,000	753,000	0	0	0	0	753,000
雑費	0	0	0	0	0	0	1,883,760	1,883,760	0	0	0	0	1,883,760
支払賃借金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
支払助成金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
寄付金	0	3,000,000	0	0	3,000,000	0	0	0	0	0	0	0	3,000,000
支払広告費	42,000	48,000	26,000	32,000	148,000	0	0	0	0	0	0	0	148,000
委託費	593,400	900,450	969,450	517,500	2,980,800	0	0	0	0	0	0	0	2,980,800
雑費	47,000	314,221	47,000	47,000	455,221	0	0	0	0	0	0	0	455,221
管理費	4,355,516	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4,355,516
役員報酬	110,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	110,000
給料手当	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
福利厚生費	90,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	90,000
会議費	87,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	87,000
旅費交通費	509,408	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	509,408
通信運搬費	422,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	422,000
減価償却費	162,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	162,000
建物減価償却	14,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14,000
2019年度減価償却	64,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	64,000
2020年度減価償却(名簿管理)	80,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	80,000
備品原価償却	4,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4,000
消耗品費	86,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	86,000
印刷製本費	554,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	554,000
機器賃借料	222,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	222,000
光熱水料費	27,720	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	27,720
雑費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
賃借料	371,388	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	371,388
保険料	13,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13,000
租税公課	356,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	356,000
支払賃借金	221,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	221,000
委託費	528,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	528,000
機器保守料	57,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	57,000
雑費	537,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	537,000
経常費用計	4,355,516	2,483,378	6,111,088	3,956,704	1,982,558	14,533,724	0	3,672,760	3,672,760	0	0	0	22,567,000
評価損益等調整相当額経常増減額	9,506,484	-2,483,378	-6,111,088	-3,256,704	-1,982,558	-13,833,724	0	4,327,240	4,327,240	0	0	0	0

2024年度第1回臨時理事会議事録

1 日 時：2024年6月15日（土）15時00分～15時30分

2 場 所：一般財団法人 日本教育会館704号会議室

3 出席者：（順不同、敬称略） 理事総数12名

- 1) 理事 出席者 9名（定款第40条に定める定足数の過半数以上の出席）
長谷川徹、菅沼延之、水野博之、中山隆志、師富潤、徳嶋明宏、広重康成、
松見準、田島孝一
欠席者 3名
玉川宏、柏木実、渡部英利
- 2) 監事 出席者 2名
酒迎和成、清崎哲也

出席理事および欠席理事の確認の上、定足数に達しており、理事会が成立する旨の報告がなされた。

4 議事録署名人 定款第44条により議事録署名人に代表理事（会長）および監事とする

5 議 事

役員改選に伴う代表理事、業務執行理事の選定について

役員改選に伴う代表理事、業務執行理事の選定について、定款第25条に基づき採決の結果、満場一致で業務執行理事が選定され、会長、副会長、専務理事を選定した。

業務執行代表理事（会 長） 広 重 康 成
業務執行理事（副 会 長） 菅 沼 延 之
業務執行理事（専務理事） 徳 嶋 明 宏

選任された各理事は就任することに同意した。

尚、会長は事務局長に飯島 寿、神戸支部長に望月正信を指名した。

広重康成会長より会長就任挨拶後、閉会した。

以上の議事を明確にするため、次に記名捺印する。

2024年6月15日

議事録署名人 代表理事 広重 康成 ㊟

監 事 酒迎 和成 ㊟

監 事 清崎 哲也 ㊟

2024年7月1日

5校同窓会の皆様へ

全日本船舶職員協会 前会長 酒迎和成

赤池まさあき後援会への入会のお願い

同窓会のみなさま方におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、全日本船舶職員協会（以下全船協）はこの程、参議院議員赤池まさあき先生を応援するため、5校はそれぞれの同窓会に「赤池まさあき後援会」を発足させる事といたしました。

その設立趣旨は次の通りです。

5校の校内練習船の代替建造の実現を目指し2018年以来、現在に至るまで、参議院議員赤池まさあき先生に陳情を重ねているところです。

2019年4月理事会において、5校練習船代替建造の促進を支援することを機関決定し、赤池まさあき先生に建造促進についての陳情書を提出しました。10月2日赤池先生、全船協、文科省高等教育局長及び課長、高専機構理事長が富山高専の若潮丸及び学校の視察を行いました。11月6日には自民党本部において、5校練習船代替建造決起集会を開催し、決議の後、財務省及び文科省に5校関係者ともども陳情を行いました。

そして同年12月15日に第1船の大島丸建造の調査費等の補正予算が決定しました。この間、全ての視察、会合、陳情などは赤池まさあき先生のご尽力の賜物であると感謝しています。

第1船の新大島丸は2023年3月竣工、第2船の新弓削丸は2024年3月竣工し、第3船の新鳥羽丸は、来春2025年3月に竣工予定となっています。

引き続き、第4船の新若潮丸及び第5船の新広島丸の竣工が順調に推移することが最重要案件となります。5隻連続建造が文科省、高専機構の基本的な計画ですが、今まで同様に赤池まさあき先生のご尽力に頼ることが必須の状況です。文科省に対する要請圧力が減ずれば、政府の財源状況に左右され建造の遅延が発生するかも知れないと危惧しています。

従いまして、全船協は引き続き、赤池まさあき先生に5校練習船の連続建造が途絶えることのないように、「赤池まさあき後援会」を発足させて強力な応援体制を構築することとした次第です。

みなさま方におかれましては、どうかご理解を賜り「赤池まさあき後援会」に入会していただきますように切にお願い申し上げます。

C号航海記（第5回）

内海水先区水先人会水先人 会 員 栗 阪 肇

前号まで： 船長初実職として C 号に乗船し、5 カ月が経過した。気持ちにも余裕ができ、出入港時の操船において周囲の船舶の動静だけでなく、遠くの景色を楽しむことができるようになった。

6-31) 鳥取市沖

船舶管理会社からの指示で、鳥取県境港の沖に浮かぶ隠岐諸島の東、鳥取市の北でドリフトを開始したのは、2 月 24 日 11 時でした。ドリフトとは、海上でエンジンを止めてブカブカと浮かんでいることです。次の富山新港の岸壁が、本船の順番になるまでここ鳥取市沖で待機するのです。

領海及び接続水域に関する法律に従い、パナマ船籍である本船は基線から 12 海里外側ドリフトを行います。

鳥取市沖で時間調整をしている時、時々粉雪が舞っていました。「やはり、日本はまだ冬なんだなあ～」と実感しました。船に乗っていると、季節感は全くありません。暑い国へ行けば夏になるし、寒い地方へ行けば冬になるし。日本が真冬でも、南へ 3 日ほど走ると真夏になります。

鳥取沖にいる時、鳥取砂丘を 1 回だけ目にすることができました。そう言えば、一等航海士になりたての乗船休暇中、当時住んでいた岡山県倉敷市から家族とドライブで鳥取砂丘に行きました。あの時のラクダ君は、元気かな？風邪をひいていないかなあ？

6-32) 富山湾

ここは不思議な湾です。その話をする前に、三等航海士として LNG 船 2 隻に勤務してい

た時、新潟東港とインドネシア国スマトラ島北端の Blang Lancang とを 20 日間で往復していたので、この富山湾は当時何度も航行しましたが、今回のように立ち寄ることがなかったもので、注意深く観察することがありませんでした。

不思議に感じているのは、富山平野（越中平野）は、東は飛騨山脈、南は飛騨高地、西は宝達丘陵、両白山地に囲まれています。その富山平野から、急に深くなっているのです。海図を確認すると最深部で 1,210m でした。立山連峰の属する飛騨山脈は 3,000m 級の山々なので、そこから海底まで約 4,000m の高低差があります。海水がなくなって、海底の場所から立山連峰を見ることができたら、それは富士山が連なる迫力となるのではないのでしょうか。

富山湾で入港前の最終時間調整（ドリフト）を開始したのは、3 月 4 日 0930 時でした。4 月中旬並みの暖かい日で、その上、本船から立山連峰が綺麗に見えました。連峰は雪を頂いて真っ白です。その日は快晴だったのではっきりと連峰を認識できましたが、朝晩に雲が出てくると雲なのか山なのか、はっきりと区別することができません。カメラで撮影を試みましたが、あまりにも雄大なので 1 枚の写真に納まりませんでした。

6-33) 富山新港

3 月 5 日 0700 時、富山湾への時間調整を終了し富山新港へ向けてエンジンを始動しました。その直後、当該海域を管轄する「にいがたほあん」へ無線連絡しました。

「にいがたほあん、こちら C 号 感度ありま

したら応答願います」「C号、こちらにいがたほあん。どうぞ」「おはようございます。本船 0700 時、ドリフト終了。これより、北陸電力 富山新港火力発電所へ向かいます」「ごっ、ご苦労さんです！」

港の入口で水先人 2 名を乗船し、タグボートが 3 隻近づいてきました。入口から航路を少し進むと、新湊大橋が架かっています。新湊大橋は、日本海側一の斜張橋です。その橋の手前右（北西方向）に「海王丸パーク」があります。そう、私が最後の練習船実習でお世話になった海王丸（2 世号）の前、昭和 5 年に建造された初代海王丸を永久展示（保存）しているのです。しかしながら、双眼鏡で何回確認しても初代海王丸を発見できません。

水先人に問い合わせたところ、修理のため今ドックに入っているとのこと。海王丸のいない海王丸パークを右手に見て、次に新湊大橋の下をくぐり、左手にある北陸電力富山新港火力発電所の専用岸壁へ到着したのが 1225 時でした。

売船が近いので、その準備として不要な物を本船から陸上へ戻す作業を始めたのが、着岸の直後。その後、食糧品・船用品・部品などを積み込み、終了したのが 16 時過ぎだったと記憶しています。着岸してから 16 時までの同時進行で、本船のバイヤー側の検査官（フィンランド人の元船長）が、バラスト・タンクの内部検査を実施しました。その日は、荷役がなかったため、ゆっくりと休むことにしました。

6-34) 海王丸パーク

3 月 7 日朝、初代海王丸がタグボートに曳航（えいこう）されて、ドックからパークへと戻ってきました。今回のドックでは、畳 250 枚分の鉄板で補強工事を行ったそうです。富山新港で、用船社の安全監督として本船荷役を監督される元船長とともに、しばらく

海王丸の接岸作業を遠望していました。本船からだ、ちょうど新湊大橋の西側橋脚の方向がパークです。東側橋脚の手前、つまり、本船のすぐ船尾には富山高専商船学科の練習船「若潮丸」が停泊しています。元船長は、富山商船高専の OB。学生時代は、海王丸パークに展示されている初代海王丸に乗船されていたそうです。



練習船「若潮丸」（C号から撮影）



着岸中の初代海王丸（C号から撮影）

初代海王丸が帰ってきた翌 3 月 8 日。海王丸パークへ足を運びました。本船から歩くこと 15 分。富山県営のフェリー乗り場があります。フェリーは対岸とを 5 分で結ぶのですが、無料！ びっくりして無料の理由をスタッフに尋ねると、もともとこの富山新港は「潟」で、港を作るためそれまで道路だったところを掘り下げ富山湾と潟を結んだ。そのため、道路の代わりとしてフェリーを運航しているとのこと。しかし、フェリーも 20 年以上も稼働し、近年のバンカー（燃料油）高

騰や、維持費のため、ゆくゆくはフェリーを廃止し、代わりにバス運行する可能性があると言いました。



富山県営のフェリー

「潟」とは、①遠浅の海で、潮がさせば隠れ、引けば現れる所。ひがた。②砂丘、砂州、三角州などのため、外海と分離してできた潮湖。一部が切れて海に連なることが多い。サロマ湖、風蓮湖の類。潟湖（かたこ、せきこ）。③湖、沼または入江の称。

フェリーを下船すると、船着き場のすぐ目の前には万葉電鉄越ノ潟駅です。万葉電鉄は、路面電車です。JR 高岡駅までつながっています。著者の生家の隣、岡山市にも路面電車がありますので、路面電車のある街は大好きです。越ノ潟駅のホームには、和歌が紹介されていました。和歌の作者は、大伴家持です。

（大伴家持（おおとものやかもち）？-785 奈良時代の政治家、歌人。大伴旅人の子。坂上郎女は叔母。没落の途にある大伴家の家長として苦しんだ。746 年越中守として赴任、751 年少納言として帰京。少年のことから作歌し、759 年までの歌が残っている。万葉集の編集者と目され、収録作品も最も多く、長短歌合わせて約 480 首。繊細な抒情歌に特色がある。）

越ノ潟駅の次は、海王丸駅です。海王丸パ

ークの最寄駅です。しかし、時間があつたのでその日は歩いて行くことにしました。40 分ほど歩いたでしょうか、海王丸パークに到着することができました。

ドックで修理を終えたばかりの初代海王丸。海王丸だけでなくパークの陸上部分も改修工事を行っていました。工事現場をくぐり抜け、海王丸の舷門へ近づくと、乗組員お二方が作業をされていました。著者「おはようございます。すいません。少しお時間を頂けますか？」それから 10 分ほど話が続きました。横浜にある航海訓練所からは、6 名がここ海王丸パークへ出向されていること。著者の同期やお世話になった訓練所職員の方々は、練習船に乗船されていること。改修工事の内容などを教えて頂きました。

B 号航海記（第 6 回）会報 151 号でも触れましたが、本船 C 号と商船学校時代の学内練習船深江丸とが生まれた岡山県玉野市。そこに宇野港があります。宇野に寄港したこの初代海王丸か、初代日本丸のどちらかに深く感動してから 30 数年の時間が経過しました。初代日本丸は横浜港にて永久保存してあるので、商船学校へ在学する前から足をよく運んでいました。しかし、海王丸は今回初めて出会い、感激も一入でした。

6-35) Green Gold

繰り返しになりますが、売船のため富山新港に到着した日からフィンランド人の元船長が検査（本船価格の査定）のため訪船しています。その元船長に、日本では石炭のことを「黒いダイヤモンド」の別名があるのけれど、西洋でもそうなのか、著者が尋ねてみました。答えは、「聞いたことはない」でした。その話の続きとして、フィンランドのことを少し教えてもらいました。フィンランドには、「Green Gold」という言葉があるそうです。

国土の多数を占めている豊富な森林のことを指すそうです。これは、フィンランドの宝物だと。

私が今まで感動した「Gold」とは、①生家の秋の田です。黄金色に輝く収穫前の稲。②太陽が反射している時の小川（用水路）の水面。季節は初夏。③太陽。日本で見るとは紅色ですが、乗船中、特に赤道に近づくと黄金色に見えます。この3つの中で、著者の育った環境に該当するものが①と②。やはり、生まれ故郷、生まれた環境がその人に与える影響は大きいです。

6-36) 富山新港

初代海王丸に再会を約束して、運動がてら散歩することにしました。海王丸パークから産業道路沿いを西へ進んで、水産物展示場（販売店）へ、そこから県道 350 号線をしばらく進んで奈古中学校。この中学校は、かつての富山商船高専でした。現在は、商船高専は、富山新港から東へ移転しています。それから、さらに南東へ進みました。地図を持っていないので行き当たりばったりです。

放生津小学校。ここはかつての城跡でした。敷地の周りにフェンスがありませんでした。名実ともに、地域に開かれた小学校でした。それとも、街全体が学校（の構内）なのか？内川。富山新港が港ではなく「潟」であった時代、潟と富山湾とを絶えず結んでいたのは「内川」だと思います。その内川の両岸には、たくさんのプレジャーボートが繋がっていました。伝統ある商船高専があるのです。この港町は、特にマリン・レジャーが盛んな訳です。神戸元町の喫茶店のマスターや、神戸にあるマリーナ（ヨット・ハーバー）を思い出しました。

放生津小学校のすぐ隣には、万葉鉄道中新湊駅がありました。駅のすぐ南側はドラ



富山商船高専記念碑

ッグストア、その道路を挟んで西側にはガソリン・スタンドがありました。中新湊駅から真北へ進み、元の県道 350 号線の交差点へと戻りました。350 号線の交差点「立町」に突き当たり、そこから 350 号線沿いに西へ進みました。お寺、神社、銀行、交番、郵便局、すし屋など飲食店、スーパーなど多数ありました。朝 10 時になったので、スーパーで買い物を済ませ、最寄の新町口駅へと向かい、石炭を揚げている本船へと戻りました。散歩から戻って、代理店から入手した地図や海図でもう一度確認すると、この新湊（新港）一帯には、地名に「神」が付くところが多いこと。まず、地図と同じで北（富山湾）を上にして、新湊大橋から西。海王丸パークの辺りから西を「堀岡神明神」。新湊大橋のすぐ北東を海竜町と言い、その東を「堀岡古明神」。本船のすぐ近くのフェリー乗り場を「堀岡明神新」と言います。そう言えば、散歩途中に多くに社がありました。他の町と比べて、人々の生活に神様とのつながりが深いことが分かりました。



富山新港での石炭揚荷



富山新港停泊中のC号



北陸電力富山新港火力発電所

富山新港に停泊中、次の航海も富山新港に帰ってくることが決定しました。石炭の次の積地は、今航の積地であるインドネシア Muara Satui のすぐ西近くです。この専用岸壁は、すぐ近くに民家があるため、荷役が朝 7 時から夜 19 時。日曜日は基本的に休みです。(普通の港は、夜も徹して荷役が行われ、

土日も関係なし) なので、その分 停泊時間が長くなり我々船乗りはゆっくりとできます。とは言うものの、あっという間に、出帆の日となってきました。

3 月 12 日。この日も入港前日と同じで春のような陽気です。その上、初代海王丸が帰ってきています。岸壁を離れ、新湊大橋の下をくぐり、左手には海王丸が本船を見送ってくれています。2 名の水先人は、防波堤を過ぎると下船されました。そこから、本船は増速。富山湾を北上し、能登半島の先端を代わって、しばらく西へ航海する夕方まで、ずっと立山連峰を目にすることができました。とても素晴らしい眺めです。雲仙と同じで、どこまでも本船を見送ってくれているようでした。「早く、帰ってこいよ～」そんな、声が著者の心に響きました。

6-37) 麗水

実は、今回初めての韓国訪問となりました。Yosu。韓国、チョルラナム(全羅南)道の南東部、ヨス半島の南東端にある商工業都市。1949 年市制。ナムヘ(南海)島、トルサン(突山)島によって風波から守られた、水深の大きい良港を擁する。李氏朝鮮時代に海防の要地として三道水軍統制營がおかれた。

日本の統治期に長崎港との連絡航路が開設され、また、チョルラ(全羅)鉄道が開通したために、商港として急速に発展。49 年貿易港となった。港はトルサン島によってナム(南)港とプク(北)港に分かれ、ナム港の周辺では海産物の集散や加工が盛んである。70 年代からサミル(三日)港を中心に臨海工業団地が造成され、大規模な石油化学工場や機械工場が操業している。ハルリョ(閑麗)海上国立公園の西端にあたり、タケとツバキにおおわれるオドン(梧桐)島、チャンゲン(將軍)島などがある。

上述「日本の統治期に長崎港との連絡航路」

だとすると、長崎駅から見えないレールが海を渡り麗水まで伸びていたのか。麗水の先は、韓国、北朝鮮、中国（満州）、ロシア。そして、ヨーロッパ各地。

富山新港からここ麗水までは、時化でした。この時期の日本海では時化が当たり前なのですが、富山新港でゆっくりし過ぎました。富山新湊から麗水まで最短航路を進んだので、出雲の神様の近くは通らず、隠岐諸島の北側を通りました。韓国沿岸は、日本と同じで船舶が輻輳していました。その間を縫って、麗水に到着した時は、さすがに著者も疲れしました。長時間、船橋で航海の指揮を執っていたからです。

この麗水、天然の良港であること、到着してから分かりました。さっきまで時化していたのですが、麗水は、また春のような陽気で、静まりかえっていました。本船が到着するとすぐにバンカー・バージが来て、補油を開始。結局、麗水には4時間15分しか停泊していませんでした。さすが韓国！と、日本と同じ高品質のサービスに感動しました。

6-38) ミンダナオ島

中学社会科の授業で、最初に習ったと記憶しています。「北赤道海流」赤道の北側を東から西に向かって流れる海流。北緯8度から23度付近の太平洋、インド洋、大西洋にあり、北東貿易風によって生ずる。太平洋では、フィリピンのミンダナオ島付近で二分し、一方は北上して黒潮となり、一方は南下して赤道逆流となる。沖縄からミンダナオ島沖にかけては一直線に（最短コースで）南下しました。前航よりもミンダナオ島寄りを本船は南下し、この北赤道海流からミンダナオ島に沿って南下する海流を捕まえる作戦です。しかし、そういう時に限って南流が弱かったり、逆の潮だったりします。今回は前航ほど南流が強くなかったのです。

大航海時代の帆船とは違い、今はエンジンで動く船に乗っている我々です。しかしながら、大自然の力を利用しない手はありません。せっかく商船学校と練習船実習とで学んだのですから、少しでも燃料の節約ができるように、色々と考えながら航海をしております。ところで、本船乗組員はフィリピン人です。ミンダナオ沖は、彼らの携帯電話（国内回線）が通じるので、家族と話ができ大喜びです！

6-39) Banjarmasin

ここは、前回訪れた Muara Satui から半島を1つ西へ進んだところにあります。陸上を車で走れば、Satui から Banjarmasin まで5時間だそうです。ちなみに、Muara とはインドネシア語で、英語の estuary, river mouth に相当します。

ここを発着するフェリーが多くあったのですが、船体横に青字で We Love Indonesia と書かれたフェリーに出会いました。あれっ、どこかで似たようなキャッチ・フレーズがあったよなあ〜。阪神淡路大震災の直後、大阪・神戸と北九州とを結ぶフェリーを思い出しました。

商船学校へ通っていた1996年夏は、「海の記念日」が国民の祝日「海の日」となった初めての年で、神戸港六甲アイランドフェリーターミナルに停泊中の阪九フェリーの船内見学に抽選で当たりました。船内見学の最後、レストランでお茶を飲んでいたら、たまたま通りかかった商船士官（事務長）から説明を受けました。「本船が瀬戸内海では一番早い船だよ」

1995年1月に発生した阪神淡路大震災の直後から、神戸の町は大復興に取り掛かりました。著者も被災したのですが、商船学校の学生寮で寝ていたため奇跡的に助かり、商船士官になる大きな夢を膨らませていた当時のことが、We Love Indonesia の文字を目に

した瞬間、走馬灯のように蘇ってきました。
見学会では、いくつかの記念品も頂戴しました。その中で、見学することができたフェリーの写真ハガキは、今でも著者の宝物の一つです。

話をC号に戻します。日本で退役したフェリーは、ほとんどの余生をインドネシアを含む東南アジアで送っております。このフェリーもそうです。だから、とても懐かしくて、ついデジタルカメラを向けていました。

(次号へつづく)

瀬戸内 *One Night Dream*



フェリーせつつ (鉄球フェリーすおう)

全長:189m 総トン数:15200トン型 最大出力:32400馬力 最高速力:時速約50km
積載台数:トラック219台、乗用車77台 旅客定員:810名



富山高等専門学校

4月4日(木)に入学式が挙行され、本校の今年度の行事がスタートしました。新型コロナウイルス感染症の位置付けが昨年度より「5類感染症」となったこともあり、今年度の入学式はほぼコロナ禍前と同様な形で実施できるようになりました。しかしながら一方で、新型コロナウイルス感染症がなくなったわけではなく、教職員・学生ともに各々が実施できる感染対策を今後も実施していくことで平常な学校生活を続けていくことが大切であると思っております。

以下におきまして令和6年度のこれまでの本校での取り組みをご報告させていただきます。

○ 令和6年度入学式を挙行

令和6年度入学式が令和6年4月4日(木)に富山市芸術文化ホール(オーバード・ホール)にて挙行されました。

入学式では國枝校長が入学者の名前を一人ずつ読み上げ、その後、式辞を述べました。厳かな雰囲気の中で、新入生は緊張しつつも今後の学校生活に期待と希望を抱いている様子が伺えました。入学式後は学科ごとに会場を分け、新入生の保護者と担当や学科長等の先生と懇談会を実施する機会が設けられました。

令和6年度4月入学者は以下の通りです。

<学科新入生>

機械システム工学科	42名
電気制御システム工学科	42名

物質化学工学科	41名
電子情報工学科	42名
国際ビジネス工学科	40名
商船学科	40名
計	247名

<編入学留学生(学科3年次へ)>

機械システム工学科	1名
電気制御システム工学科	1名
物質化学工学科	1名
電子情報工学科	1名
計	4名

<専攻科>

エコデザイン工学専攻	21名
制御情報システム工学専攻	10名
国際ビジネス学専攻	6名
海事システム工学専攻 海洋資源環境学連携教育プログラム	2名
計	39名



入学式の会場の様子(新入生)



入学式の会場の様子(壇上)

○ 新入生の練習船「若潮丸」オリエンテーションを実施

商船学科、電子情報工学科、国際ビジネス学科の新入生がそれぞれ5月8日(水)、6月19日(水)、7月10日(水)の午後半日をかけて練習船「若潮丸」に乗船し、オリエンテーションを実施しました。

本校からバスで臨海実習場に到着した後、艇庫に集合し、乗船に際しての説明や注意事項を傾聴しました。艇庫の広いスペースには普段見ることのない船舶関係の様々な用具が置いてあるということもあり、新入生の多くが興味深く艇庫内を見ている様子が印象的でした。その後「若潮丸」に乗船し、木甲板での集合後に各クラスでいくつかの班に分かれて船橋、居室、機関室をはじめとした船内をまわり、色々な説明を船長や航海士、機関士の先生から受けました。そして「若潮丸」で出港し、富山湾を少しの間航行しました。人によっては人生で初めて船に乗って航海した経験となった新入生もいたと思われます。

商船学科の新入生は今後の学生生活において多くの実習や実験を練習船で行っていくこととなりますが、このオリエンテーションがその最初の一步となりました。本校の商船学科の学生は2年生時の後半で航海/機関コースの選択をし、3年生からコースが分かれることになっています。



練習船「若潮丸」乗船時の様子



「若潮丸」の木甲板での集合の様子



「若潮丸」の機関室で説明を受けている様子

新入生の中には現時点ですでに心の中ではどちらのコースにするかを決めている学生もいますが、まだ決めかねている学生も多く存在しています。そのため、今回のオリエンテーションがコース選択をするための一つの材料となる良い機会になるとも思います。

商船学科だけでなく電子情報工学科、国際ビジネス学科の学生らもこのオリエンテーションで将来の糧となる経験を得られたとっております。国際ビジネス学科の学生が今後の授業で学ぶことになる物流において港湾は重要な拠点の一つであり、そこを実体験として身近に感じることで今後の勉学に弾みがつくことと思います。また、電子情報工学科の学生も若潮丸に装備されている多くの機器類についての説明を熱心に聞いていました。船舶の運航には各種センサからの情報や制御装置による操縦が必要不可欠なものとなっています。多種多様な電子情報技術が船舶航行に内在していることを実感してもらい、この経験を今後の学びに活かしてもらえないかと思っております。

どの学科の新入生であっても学生時代の貴重な経験、思い出としてこのオリエンテーションが掛け替えのないものとなってくれると幸いですと思っております。

○ 保護者による授業参観を実施

4月28日(金)、射水キャンパスでは昨年度に引き続き、保護者による授業参観を行いました。多くの参加者があり、保護者の方が富山高専での授業風景を見学し、学生の学校での様子を見ることが出来る貴重な機会となったかと思っております。クラスによっては実験の授業を見学することになった保護者の方もおり、学生が実験する様子を熱心に見ておられました。また、ゼミなどの少人数教育の現場を参観する保護者の方もおり、色々な形で保護者の方が普段の学生の様子を知る機会になったかと思っております。

【教務主事補 商船学科 清野義敬】

<学生会活動>

○ 新入生研修

5月13日に新入生研修を実施しました。射水キャンパスと本郷キャンパスの新入生がバレーボール大会や外部講師の講演会など様々なイベントでキャンパス間の交流が図られました。



○ 北斗祭(学園祭)

5月25日・26日に第16回北斗祭を実施しました。クラスや部活動の展示、模擬店、ステージの準備のために、遅くまで残って協力し合う姿が見られました。

当日は晴天にも恵まれ、延べ5千人を超える多くの方々にご来場いただき、大盛況のうちに北斗祭を無事終えることができました。





○ 熱中症対策講座

これから暑い日が多くなるため、熱中症対策が必要です。このため、6月19日(水)に熱中症対策講座を開催しました。本校学校薬剤師の青塚保志先生を講師に迎え、熱中症の原因と症状、熱中症になった時の対処法などを学びました。各クラブ・同好会の代表学生らが受講しました。

○ 校内カッターレース大会

7月4日(木)、校内カッターレース大会が開催される予定です。例年より梅雨の時期が遅れており、天候に不安が残りますが学生会メンバーで実施に向けて準備を進めています。

<課外活動>

○ 北陸地区高専体育大会

7月6日(土)から7月7日(日)にかけて、北陸地区高専体育大会が開かれています。

射水キャンパスからは、陸上・バスケットボール・テニス・サッカー・卓球・バドミントン・水泳・剣道・柔道が出場しました。

○ 全国商船高等専門学校漕艇大会

7月15日(月)、全国商船高等専門学校漕艇大会が富山高専射水キャンパス臨海実習場で開催される予定です。実施に向けて準備を進めています。

(学生主事補 商船学科 小林 大)

「北斗会便り」

令和6年元日の能登半島地震から半年が過ぎました。被災地では復興が進められる中、梅雨入りした現在、集中豪雨による災害も懸念されています。

北斗会では石川富船会を中心に、会員の被災状況の把握を進め、被災された会員への支援を長期的に行ってまいります。

そのような中でも前向きに同窓会活動を行うべく、関東・関西支部ではカッターレース大会への参加、そして6月1日に富山市内で令和6年度北斗会理事会・総会・懇親会を開催しました。

○ カッターレース大会に参加

各支部の活動として、5月12日には神戸港、5月19日には横浜港で行われたカッターレース大会に我が北斗会会員も参加して活躍しました。レースの成績は別として、終了後の打ち上げはかなり盛り上がりました。

毎年両港でカッターレース大会が行われていることはご存知の方も多いと思いますが、来年には是非参加してみませんか。



神戸港カッターレース大会参加者集合写真



レースの様子



○ 総会・懇親会の開催

理事会・総会では、在校生との交流・支援、時代に合った総会の開催方法等の提案があり、意見交換が盛んに行われました。

続く懇親会では、懐かしい顔ぶれに話に花を咲かせました。

今回は 30 代～80 代までの 25 名が参加しました。



総会の様子(國枝校長のご挨拶)



懇親会での歓談の様子

「北斗会」事務局 K1 中前 薫

鳥羽商船高等専門学校

○ 気象観測機器コンテストで優秀賞・特別賞を受賞したチームが鳥羽市長を表敬

令和5年12月16日（土）に開催された一般財団法人WNI気象文化創造センター主催による第12回高校・高専気象観測機器コンテストにおいて、優秀賞と特別賞（佐々木嘉和賞）を受賞した学生らが表敬訪問し、結果報告と制作した作品について、プレゼンテーションを交え、鳥羽市長に紹介を行いました。

鳥羽市長から、今回の労いとともに、次回に向けて期待の言葉をいただき、有意義なひとときとなりました。



○ 高専 GCON2023 の受賞チームが鳥羽市長を表敬訪問しました

第2回高専GIRLS SDGs×Technology Contest（高専GCON2023）にて、最優秀賞、文部科学大臣賞を受賞したチームの学生らが鳥羽市長を表敬訪問し、結果報告と制作した作品について、プレゼンテーションを交え、鳥羽市長に紹介を行いました。



表敬訪問には、本取り組みにご協力いただいたケアシェル株式会社様（鳥羽市）と、豊田工業高等専門学校の指導教員も同席いたしました。

鳥羽市長から、今回の労いとともに、次回に向けて期待の言葉をいただき、有意義なひとときとなりました。

○ 鳥羽丸代船のモックアップ(実物大模型)を本校学生・教職員が見学しました

令和6年2月5日（月）、三菱重工マリタイムシステムズ株式会社（岡山県玉野市）様にて現在建造が進んでいる鳥羽丸代船のモックアップを商船学科の学生および教職員が見学いたしました。



三菱重工マリタイムシステムズ株式会社様の担当者から、鳥羽丸代船に実装される災害

支援機能や自動運航システムについてご説明いただいた後、鳥羽丸代船の情報統合型船橋（コックピット型コンソール）と機関制御室のモックアップを見学しました。学生たちは、最先端の技術が実装される鳥羽丸代船に目を輝かせていました。

○ 滋賀県立高専共創フォーラム創立記念イベントに鳥羽商船高専の学生が高専代表として登壇しました

滋賀県初の高等専門学校の令和10年4月開校に向けて開催された「滋賀県立高専共創フォーラム」の「創立記念講演&トークセッション」イベントに鳥羽商船高専の学生が、高専代表として登壇いたしました。

トークセッションでは、「高専と企業との連携・競争の現状と未来への展望」というテーマで地元企業との連携について、成果発表を行いました。



○ ローカル 5G を活用した AI によるブリ自動給餌の実証実験について 鳥羽商船高専の学生が総務省の方に説明を行いました

株式会社 ZTV 様を中心に三重県尾鷲市で実施している、ローカル 5G を活用した AI 画像認識によるブリ養殖の効率化に向けた実証実験について、鳥羽商船高専の学生が、視察に来られた総務省の方に説明を行いました。

本実証実験は総務省の「令和4年度課題解決型ローカル 5G 等の実現に向けた開発実証」に8月5日付けで採択されたものとなります。



○ 第1回情報機械システム工学科卒業証書授与式並びに第18回専攻科(生産システム工学専攻)修了証書授与式を挙行了しました

令和6年3月15日(金)、第1回情報機械システム工学科卒業証書授与式並びに第18回専攻科(生産システム工学専攻)修了証書授与式を鳥羽市民体育館サブアリーナで挙行了いたしました。



情報機械システム工学科は平成31年度(2019年度)に新設され、今年度は本学科1期生の卒業生となります

式典では、和泉校長から学生一人ひとりに証書が授与された後、「同窓生、研究室や部活の諸先輩ともしっかりつながり、また後輩を引っ張ってください。人生100年といわれる時代、スマートで几帳面、負けじ魂で進もうではありませんか。」と式辞が送られました。

卒業生、修了生は鳥羽商船高専での思い出

を胸に、晴れやかな姿で本校を巣立っていきました。

○ 令和6年度入学式を挙行いたしました

令和6年4月5日(金)、令和6年度の入学式を挙行いたしました。

今年度は、商船学科42名、情報機械システム工学科80名、専攻科生産システム工学専攻8名および留学生3名の新生を迎えました。古山校長から式辞が述べられたあと、本科と専攻科の入学代表が新たな学生生活のスタートに向けて抱負を述べました。



○ 令和6年度第1回国際交流報告会を開催しました

令和6年4月26日(金)、鳥羽商船高等専門学校メディアホールにて、令和6年度第1回国際交流報告会を開催いたしました。

本報告会では、「MEL キャンプ」に参加した学生らが各々のプログラム体験を報告し、滞在国の文化を紹介しました。発表のあと、校長、学生および教員から様々な意見と質問があり、発表者は日本語と英語の二言語を用いて回答する場面もありました。



○ 令和6年度練習船「鳥羽丸」体験航海を開催しました

令和6年6月1日(土)、8日(土)において、令和6年度練習船「鳥羽丸」体験航海を開催しました。

三重県内外の小中学生や保護者ら合計68名が参加し、練習船「鳥羽丸」に乗船して教員や商船学科学生から船員の仕事内容などについて説明を受けました。

その後、船橋・機関制御室・船内教室等を見学し、実際に双眼鏡で海況を確認したり、操舵することで船を動かす体験をしました。

さらに、伊勢志摩国定公園内を海から眺めながら、参加者には教員・学生らと船のことや授業内容等について直接話す機会が設けられました。

参加者からは「学生さんの丁寧で親切な案内が素敵でした」「実際に乗船体験できたことが良かった」「学生生活の話が聞いて良かった」といった感想をいただきました。



本イベントで使用した練習船「鳥羽丸」は3代目で、令和6年6月14日(金)に退役するため今回は最後の体験航海でした。

本練習船は多くの船員を養成することに貢

献しただけでなく、このようなイベントで船の魅力を伝えることにも大きく寄与しました。

来春、新しい練習船が就航予定です。本校は新たな練習船とともに、鳥羽商船高専の船員養成教育とその魅力を伝えるための活動をこれからも続けていきます。

○ 創基 150 周年特設サイトの公開について

この度、鳥羽商船高等専門学校 創基 150 周年特設サイトを公開いたしました。

特設サイトでは、創基 150 周年関係のイベント情報や鳥羽丸代船の進捗状況などを随時お知らせいたしますので、ぜひご覧ください。

鳥羽商船高等専門学校 創基 150 周年特設サイト

[【https://www.toba-cmt.ac.jp/150th/】](https://www.toba-cmt.ac.jp/150th/)

鳥羽丸代船の進捗状況

[【https://www.toba-cmt.ac.jp/150th/category/commemorative-project/new-tobamaru/】](https://www.toba-cmt.ac.jp/150th/category/commemorative-project/new-tobamaru/)

【 商船学科航海コース 齊心俊憲 記 】

○ 練習船3代目鳥羽丸とお別れをしました

令和 6 年 6 月 14 日（金）、私達の練習船 3 代目鳥羽丸とのお別れの式典を開催しました。

多くの本校学生、教職員、同窓会 OB の方々その他関係者の皆様が本式典に参加し、またリモートでの参加者も含めて、本船にお別れを伝えてくれました。

3 代目鳥羽丸には 30 年の間、本校学生の実習でお世話になり、延べ 1,000 名以上の学生の実習を行っていただきました。

今年度 4 月に校長として赴任する前の 3 月 18 日（月）に前校長の和泉先生のもとを訪れた際に、本船を案内していただき、齊心船長に船内見学の説明をしてもらいました。この日が初めての本船と出会った日でした。

そして、約 3 か月後のお別れの式典で今度は運航する本船に初めて乗船させていただきました。大野元機関長の案内で、再度、機関室も含めて船内見学をさせていただきました。

最終航海は、学生と船員、教職員、合わせて

約 60 人を乗せて出航し、1 時間半ほどかけて伊勢湾内を巡りました。

この日はお別れの式典を察知したのか、伊勢湾も穏やかな海で揺れることもなく、楽しくも寂しい最後の航海でした。

本船は学生の実習だけではなく、いろいろなイベントで本校の顔として活躍してくれました。これらイベントがきっかけで本校に入学してくれた学生、卒業生もいるのではないのでしょうか。

また本船を利用したイベントで船や海に興味を持ってくれた人達も多いと思います。

式典に本校まで来ていただき、参加してくれた方々、またリモートでこの式典に参加してくれた方々の中には本船への思いの深い方もおられたことでしょう。

就職した後、かつての練習船鳥羽丸（初代もしくは 2 代目）にフィリピンのマニラ湾で再び出会って、懐かしい気持ちになったと語ってくれた本校 OB の方もおられました。

皆様、それぞれにお世話になった練習船のことを忘れずに記憶の中に留めてくれているということです。

本校を代表して 3 代目鳥羽丸にお伝えします。本校学生、同窓会 OB、教職員、その他関係者の皆様に多くの楽しい思い出を与えていただき、また 30 年間の長きにわたるご活躍、本当にご苦労様でした。

ありがとうございました。

【 校長 古山 雄一 記 】





鳥羽商船高専同窓会だより

○ 平成6年度鳥羽商船同窓会総会開催

令和6年6月9日（日）名古屋駅前名鉄グランドホテルに於いて同窓会総会懇親会が開催されました。

今年では中部支部の担当で、正会員 86 名と来賓 3 名（母校古山新校長、攻玉社より同窓会田村事務局長、森監事）の出席を得て盛大に開催されました。

会長挨拶は、母校創基 150 周年、同窓会設立 100 周年、新練習船鳥羽丸の就航と 3 つの慶事を来年度に迎え、同窓会もこれらのお祝いに参画、協力するにあたり、同窓の皆様にご多大なご寄付を賜ったお礼と来年は新鳥羽丸を見学しにぜひ鳥羽の地においでくださいとの言葉がありました。懇親会は船歌集「思い出の鳥羽商船」の DVD を放映しながらの宴で久しぶりの再会に喜びの笑顔と談笑で満ち溢れていました。宴の最後に、岩崎敏壽（S35N）さんに挨拶をいただき、岩崎さんが在学中に初代鳥羽丸の船名募集選考委員の一員として加わり今の鳥羽丸に決定した思い出を話されました。今回の新造船の船名について菅沼会長もぜひ公募をと母校に要望していましたが残念ながら、時すでに遅く、船名は“鳥羽丸”に決定していました。来年の総会は慶事重なる鳥羽の地での再会を期して、三井健次（S43E）伊勢志摩支部長の万歳三唱で締めくくりました。





○ 三代目鳥羽丸 “退役セレモニー”と”離岸式”

来年誕生する新鳥羽丸は現鳥羽丸より大型化するので、現存のポンツーンでは小さく、また喫水も深くなり、海底の浚渫工事を行う必要があります。ポンツーン新設工事のため、止む無く鳥羽丸を早期に退役させることになりました。

6月14日に母校主催で鳥羽丸退役セレモニーを執り行いました。退役セレモニーの航海には母校から抽選で選ばれた在校生と航海訓練所練習船実習の合間をぬって駆け付けた実習中の商船学科女子学生達が最後の操船実習に加わり航海を行いました。

現鳥羽丸は30年に亘り、母校商船科の学生たちのマザーシップとして活躍し、多くの学生を送り出しました。今後は調査船として活躍され、無事の航海を祈念いたします。



【 同窓会事務局長 江崎隆夫 】



鳥羽商船同窓会ホームページのご案内

【事務局からのお知らせ】【会員の投稿】を掲載しております

母校の活躍や同窓生のクラス会での様子などが紹介されています

ura.ne.jp/

鳥羽商船同窓会ホームページはこちらです

<http://tobacmtdousoukai.sak>

広島商船高等専門学校

○ 商船系高等専門学校と日本内航海運組合総連合会との交流と連携・協力の推進に関する協定書調印式を挙行

令和6年3月15日(金)日本内航海運組合総連合会(東京)において、商船系高等専門学校(広島商船高等専門学校、富山高等専門学校、鳥羽商船高等専門学校、大島商船高等専門学校および弓削商船高等専門学校)と日本内航海運組合総連合会(以下「内航総連」という。)との交流と連携・協力の推進に関する協定書の調印式が行われました。

商船系5高専を代表して富山高等専門学校の國枝佳明校長、内航総連の栗林宏吉会長が出席し、協定書への署名を行いました。

今回の協定締結を機に、連携をさらに深め、それぞれが抱える課題の解決と海事人材の育成に寄与するよう取り組んでまいります。



○ 4月6日(土)若潮寮入寮式を挙行

令和6年度は104名の1年生が入寮しました。

夕方より寮生会の先輩と共に食事、入浴等の案内を受け、その後、寮の教員から生活面における諸注意を受け、寮生活をスタートしました。



○ 新任教員研修会を実施

4月1日(月)に本年度新任教員を対象に研修会を実施しました。

本校の現状や教員の業務などの具体的な事例を踏まえながらの説明となりました。

新任教員においては、はじめは緊張気味でしたが、徐々に緊張も薄らぎ、今後の教育活動を行う上で有益な体験となったようです。

○ 4月7日(日)入学式を挙行

商船学科44名、電子制御工学科44名、流通情報工学科44名、留学生2名、専攻科産業システム工学専攻2名が入学しました。

逸見校長からは「学び舎で躊躇なく様々なことを学び、体験し、試行錯誤しつつも挑戦を忘れずに成長してもらいたい」と式辞があり、流通情報工学科 田中さんが新入生総代として宣誓を行いました。

また、日熊学生会長の「自分の興味があることをたくさん見つけ、チャレンジし、充実した

学生生活にしていきたいと思います」と歓迎の挨拶がありました。



○ 令和5年度後期功労賞受賞表彰式を実施

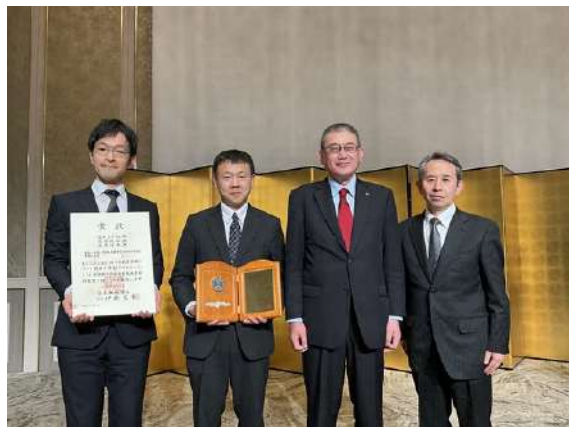
4月10日（水）、課外活動等で顕著な成績を修め、他の学生の模範となった団体及び学生を対象として、功労賞受賞表彰式を行いました。



○ 日本機械学会教育を受賞

4月18日（木）に本校の藤原 滋泰准教授、瀧口 三千弘名誉教授が東京海洋大学の藤野俊和准教授とともに日本機械学会教育賞を受賞しました。

「運動と振動に関する各種学習用教材の開発と書籍の出版」に関する功績が認められての受賞となります。



(写真左から 藤原 滋泰准教授、藤野 俊和准教授、伊藤 宏幸日本機械学会前会長、瀧口 三千弘名誉教授)

○ ボランティア清掃

大崎上島町商工会青年部からお声がけいただき、学校下にあるスーパー(株)フレスタと協力し、学校周辺の清掃活動を行いました。

その結果、ペットボトルや缶など多くのゴミを回収することができました。

ボランティア参加募集期間が短かったにもかかわらず、学生会を含む本校学生 22 名が参加し、商工会青年部の方々も驚かされていました。

地域住民の方々と協力しあえる学校を目指し、様々な活動を行っていききたいと思います。





○ 第50回瀬戸内商船高等専門学校2校定期戦開催

6月15日(土)に、本校および弓削商船高等専門学校を会場として、瀬戸内商船高等専門学校2校定期戦を開催し、各会場で熱戦が繰り広げられました。

試合後には、交流戦も行い、盛り上がっている会場から学生の仲が深まったことを感じました。

【交流戦結果】

(広島会場)

種目	広島	弓削
剣道	○ 2	× 1
水泳	○ 46	× 35
バドミントン (男子)	× 1	○ 2
バドミントン (女子)	× 0	○ 3
ソフトテニス	○ 5	× 0

(弓削会場)

種目	広島	弓削
硬式野球	○ 15	× 4
サッカー	× 1	○ 2
卓球	○ 7	× 3
バスケットボール (男子)	○ 61	× 53
バスケットボール (女子)	× 17	○ 48
柔道	○ 2	× 1



○ 令和5年度国立高等専門学校教員顕彰若手部門分野別優秀賞受賞

令和5年度の国立高等専門学校教員顕彰において、商船学科 岸 拓真 准教授の顕彰題目「DXスキル教育およびそれらの社会実装に向けたプロジェクト推進」が若手部門分野別優秀賞(教育・研究を通じた社会貢献分野)を受賞しました。

逸見校長から表彰状と記念品が贈呈され、祝辞がありました。



○ 商船学科公開講座開講

6月22日(土)小中学生を対象とした公開講座を開講しました。

県内外の小中学生 31名と保護者 21名が参加し、練習船広島丸に乗船しエンジン始動見学、操舵・防災体験を行いました。

受講者は、各日課に真剣に取り組み、海や船への関心を深める機会となりました。



【商船学科 金川 静子 記】

校 友 会

【総会報告】

5月18日(土)ナビオス横浜にて出席者33名で総会が開催されました。

役員改選

☆会長 中山隆志 相談役 望月正信

☆事務局長 茶園敏文 → 清田耕司

★ 校友会会員の方へ

来年度より、過去3年案内に返信のない方には、郵送を廃止します。

ホームページに掲載はしていますのでご覧ください。

【合祀式のお知らせ】

10月19日(土)11時より本校慰霊碑広場にて、今年度亡くなられた40名の合同慰霊祭を開催します。多数の参加をお願いいたします。

広島商船高等専門学校 校友会

月水金 9:00~15:00

TEL 0846-65-3899

Mail: koyukai@hiroshima-cmt.ac.jp



大島商船高等専門学校

令和6年4月から6月にかけて行われた主な式典、教育活動、地域連携活動などを中心に紹介します。

1. 式典・催事

○ 令和6年度入学式を挙

令和6年4月4日(木)、本校において、令和6年度入学式を挙

行しました。今年度は、商船学科43名、電子機械工学科42名、情報工学科42名の合計127名が入学し、また、専攻科電子・情報システム工学専攻に14名が入学しました。さらに、電子機械工学科の第3学年に1名、情報工学科の第3学年に1名、留学生が編入学しました。

藤本隆士校長は、新入生に対して「同級生や仲間と接するとき、他人の気持ちを思いやり、気遣いをする

ことを心がけてください。これからの技術者は、自然環境に配慮し、人に優しいものづくりをし、自分とは異なる考えを受け入れて互いに成長していく、多様性を受け入れるマインドが必須となります。」と話し、式辞としました。

また、大島丸も満船飾(まんせんしよく)で新入生をお祝いしました。



校長式辞



大島丸満船飾(まんせんしよく)

2. 教育活動

○ 令和6年度バイク講習会を実施

令和6年4月10日(水)、本校にて、バイク通学を希望する学生のためのバイク講習を実施しました。当日は柳井自動車学校から講師をお招きし、バイクの安全運転についてご指導いただきました。



講習の様子

○ 専攻科の授業で CYNEX のセキュリティ教材を活用

サイバーセキュリティ情報を国内で収集・蓄積・分析・提供するとともに、社会全体でサイバーセキュリティ人材を育成するための共通基盤として組織されたサイバーセキュリ

ティネクス (CYNEX) に、本校は参画しており、CYNEX が提供する様々なセキュリティ教材を用いて、セキュリティ関連の授業を行っています。

令和6年4月23日(火)に、そのCYNEXの主任研究員を務める国立研究開発法人情報通信研究機構(NICT)の先生が来校され、専攻科 電子・情報システム工学専攻 1年生の「創造工学演習」の授業において、CYNEXのセキュリティ教材を使用し学習の様子を見学され、授業の後半にはセキュリティ教材についてのディスカッションを学生達と行いました。

今回の経験を活かし、学生達はこの授業(前期)においてセキュリティ教材の制作に取り組んでいきます。また本校では、情報セキュリティ関連の授業においてCYNEXのセキュリティ教材を積極的に活用していく予定です。



授業風景

○ メイクマナー・スキンケア講座(第4学年対象)を開催

キャリア教育の一環として、令和6年5月7日(火)放課後、株式会社ポーラ様より講師をお招きして、メイクマナー・スキンケア講座を開催しました。

本講座では、お化粧の効果やビジネスメイクとおしゃれメイクの違い、各種化粧品の使い方やスキンケアについて学びました。

本講座には4年生19名が出席しました。また、学生がメイクのモデルを務めたほか、終了後も多数の学生から講師の方への相談があり、実演を交えて丁寧に対応して頂くなど、

大変有意義な講座となりました。

3. 学校PR活動、クラブ活動の表彰など

○ 大島商船高専サイバー犯罪抑止隊の受賞を報告

大島商船高専サイバー犯罪抑止隊とは、山口県警察本部生活安全部から委嘱されたボランティア隊です。

違法なWebサイトを見つけたら、警察本部の管轄するサイトへ連絡する活動などを行います。

このたび、令和6年2月13日(火)午後3時から同月20日(火)午後6時までの間を大会期間として開催された「フィッシングサイト撲滅チャレンジカップ」に本校のサイバー犯罪抑止隊に所属する学生が参加しました。

この大会は日本サイバー犯罪対策センター(JC3)が実施する、基礎から専門的知識までを習得できる講習会を受講したのち、同センターが提供するフィッシングサイトテイクダウン支援ツール「Predator」を利用してフィッシングサイトを一斉にテイクダウンさせる大会です。

参加したボランティア団体は全国の27団体(参加者125名)でした。

大会成績としては、団体部門で1位となり、個人部門では、商船学科の学生(当時3年)が「個人テイクダウン部門」で1位、「個人総合ポイント」で2位の優秀な成績を収めました。

○ 令和6年度第1回オープンキャンパスの開催

令和6年6月22日(土)、本校にて第1回オープンキャンパスを開催しました。

当日は天候には恵まれませんでしたが、山口県内を中心に広島県等から281名(うち中学生142名)の方にご参加いただきました。今回はフリー見学で、興味のある学科の研究室や各施設を自由に見学していただく形式としました。

起業家セミナーの実施や、特別授業等を行うことなどをしていきたいと述べました。



全体説明会



記者会見後の記念撮影

(左から北風情報工学科長, 津田さん, 藤本校長)

【商船学科 渡邊 武 記】



大島丸体験航海

○ 本校情報工学科学生が起業

本校情報工学科 5年津田拳志郎（つだけんしろう）さんが、令和6年5月21日（火）に、周防大島町を拠点に地域密着型の情報サービス、農業サービスを提供する新会社、株式会社 Midmoa（ミッドモア）を立ち上げた旨、令和6年6月26日（水）、本校において記者会見を行いました。

会見で津田さんは、令和5年度開催の第1回高専起業家サミットでプラチナ協賛企業賞（3DPC 賞、提供：株式会社 3D Printing Corporation 様）を受賞したことをきっかけに起業を選択したことや、事業概要について説明を行いました。

また、今後の展開として、周防大島町内の商工会、コミュニティへの参加や、校内での

小松会だより

○ 50年の時を経て母校“大島商船高専”へ

高専2期生の村上氏が、ご自身が所有する40フィートのヨットで熊本県の天草を発ち5月1日に大島商船高専に着きました。

村上氏は本校3年在学時に英会話の授業で外国人の先生が問いかけた「What is you dream?」の問いかけに「I want to get sailing boat that length of yacht is 40ft.」と応えられ、その夢が50年の時を経て叶いました。

本校までの道中、長崎、関門、宇部の各支部の同窓生とも交流を深められたもようです。



○ 京浜支部 第41回 横浜港カッターレース参加

令和6年5月19日 5年ぶりに横浜港カッターレースへ参加しました。今年は、3艇の申請をするも2艇のみ申請が通り「大島丸」と「ちどり」にて参加しました。

結果は、以下の通りとなりましたが、5年ぶりのブランクは若干感じるも、山下公園にて同窓生およびご家族含め約40名にて一日楽しいひと時を過ごしました。

<今年度の結果>

予選第5レース：大島丸予選2位

予選第7レース：ちどり予選4位



大島丸クルー

○ 第5回 新京浜小松会ゴルフコンペ開催

下記日程にて、第5回 新京浜小松会ゴルフコンペを市原京急カントリークラブにて開催致しました。

当日は、終日快晴に恵まれ絶好のゴルフ日和となりました。

日時：2024年6月14日(金)

場所：市原京急カントリークラブ



予選第7レース:ちどり



集合写真



集合写真



来年も、大島商船高専校旗の下で集いましょう！！

【 同窓会理事:山口伸弥 】



弓削商船高等専門学校

○ 令和6年度入学式を挙

令和6年4月5日（金）、令和6年度入学式を挙

式を挙



また、来賓の上村俊之上島町長から御祝辞を

最後に、在校生を代表して、商船学科4年の

今井銀さんが歓迎の言葉を述べた後、入学生を

多数の来賓、教職員そして保護者に見守られ

○ 練習船「弓削丸」お披露目会を開催

令和6年3月24日（日）、練習船「弓削丸」お披露目会を開催しました。

お披露目会は上島町消防本部、株式会社NTTドコモ四国支社ネットワーク部災害対策室の協力を得て、一般公開（船内見学）と防災設備を展示しました。

近隣の方々や弓削商船高専の同窓生など、大人461名、子ども108名の合計569名の方にご来場いただき、盛大に「弓削丸」をお披露目することができました。



○ 令和6年度新入生対象メンタルヘルス研修を実施

令和6年4月に計2回、アSEMBリホールに於いて対人関係等について学ぶことを目的として新入生対象メンタルヘルス研修を実施しました。

第1回 演題「困ったときの対処法と人間関係づくりのヒント」

第2回 演題「言いたいことをうまく伝える方法とストレスマネジメント」

本校スクールソーシャルワーカーの春田 裕

和先生、カウンセラーの林 祐太郎先生から、学生相談室の紹介や、クッション言葉、アサーティブ・コミュニケーション、高専生活特有のストレス、ストレス反応を低減するコーピングについて研修していただきました。

「自分の気持ちを正直に相談することは得意ではないが相談してみたいと思った」、「他人に依存せず、流されないようにしたいです」、「人間関係にもほどよい距離感が必要だということに納得できました」等の感想が聞かれました。



○ 身だしなみ講習会を本校で開催

令和6年4月17日（水）13時30分から、3年生以上の女子学生・4年生以上の男子学生の希望者を対象に、資生堂ジャパン株式会社の講師による身だしなみ講習会を開催し、女子11名・男子14名が受講しました。



講習の中で、各学生は実習を交えた実践的なメイクアップ技術を学ぶことができました。就職活動を控えた学生たちにとって、社

会人として必要となる身だしなみに関する知識を得ることができる貴重な機会となり、参加した学生たちは真剣な眼差しで講師の話に耳を傾けていました。



○ 商船高専生のための仕事研究セミナー実施

令和6年5月18日（土）に第一体育館において商船高専生のための仕事研究セミナーを開催しました。

本校商船学科の1～5年生、広島商船および大島商船の商船学科4・5年生が参加し、104社の企業から説明を受けました。

このセミナーは、学生の進路決定に必要な様々な情報と多様化する仕事に対して的確な選択ができる素地を育む機会を提供することを目的としています。

参加した学生は、積極的に質問をしたりメモを取るなどして、説明に熱心に耳を傾けていました。





○「瀬戸内国際ヨットラリー2024」弓削島で参加者との交流を実施

「瀬戸内国際ヨットラリー2024」（主催：一般社団法人長距離航海懇話会）が開催され、本校が立地する弓削島にも5月17日（金）から5月19日（日）まで寄港し世界各国の参加者を本校学生が「おもてなし」しました。本イベントは、2019年以来の開催になります。



国内外の参加者計23名に対し、本校の学生37名が自主的にウェルカムパーティーや島内

でのバーベキュー、昼食会等の「おもてなし」を企画・立案し3日間にわたり交流を深めました。

また、セーリング世界一周を達成された日本人女性、尾崎香代さんがラリーに参加されていることから特別に本校で講演会を実施しました。実施後の学生アンケートでも「将来の役に立つと思う」「次回も参加したい」など好意的な意見がほとんどでした。

本取り組みは、KOSEN4.0プロジェクトの地域と学生達の関わりを深めていく地域創生演習の一環として、上島町と連携して実施する事業です。本校は今後も離島の特性を踏まえ、離島工学に基づく防災・減災に精通したIoT技術者の育成に取り組んで参ります。

【練習船弓削丸 森瑛太郎 記】

弓削商船高専同窓会

■尾道支部第63回青松会ゴルフコンペを開催

令和6年5月11日（土）、尾道カントリークラブ宇根山コースにおいて、第63回青松会ゴルフコンペが開催されました。

昨年は雨の中での開催でしたが、今年は快晴に恵まれ絶好のゴルフ日和で楽しい一日となりました。今回28名の同窓生に参加いただき、皆様のおかげをもちまして無事終えることができました。表彰式も同カントリークラブで行い、栄えある優勝者には高本様が輝きました。

以下、3位までに入賞した方のみご紹介いたします。次回は11月4日（祝）、今治支部主催で「第2回しまなみ会」を開催致しますので、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

	氏名	ネット
優勝	高本芳朗 (N66)	73.6
準優勝	吉岡 繁 (N69)	73.6
第3位	三阪弘樹 (E45)	74.0



■第 41 回横浜港カッターレースに弓削商船同窓会2チームが出艇

5月19日(日)第41回横浜港カッターレースが開催されました。弓削商船同窓会 京浜支部で「弓削商船OBかみじま」および「弓削商船OBしらすな」の2チームが参加出艇いたしました。

当日は風も少なく絶好のカッター日和となり、また今大会ではコロナ以前のように徐々に参加チームも増えてきており、一般116チーム、女子18チーム、小学生4チーム、計138チームが参加し熱いレースを行いました。

当校OBチームは残念ながら2チームとも決勝レースには出られませんでした。一般レース116チーム中第24レース：弓削商船OBかみじま(全体9位)、第26レース：弓削商船OBしらすな(全体26位)と好成績を残しました。

今大会から新しく若いメンバーも加入しており、今後は更に練習して決勝レースに参加できるよう精進して参ります。来年も参加予定ですので、応援のほどよろしくお願いいたします。



チーム「かみじま」



チーム「しらすな」

■令和6年度弓削商船高専同窓会支部長会議・総会を開催

令和6年6月22日(土)弓削商船高等専門学校第一会議室において、令和6年度弓削商船高専同窓会支部長会議と総会が開催されました。

支部長会議には会長・各支部長など9名出席し、総会の議事の確認、各支部における令和5年度の活動報告と令和6年度の計画などが報告されました。総会は同会場において17名が出席し、次第の通り開催地支部長の挨拶、会長挨拶、校長挨拶の後、6つの議案について議事が諮られ、全ての議案において承認されました。報告では、令和6年3月代替船弓削丸の竣工式関連行事の報告が行われ、出席した加藤弓削丸船長から実習スペースや居住空間の快適性や操作性の素晴らしさ等が紹介されました。次年度総会は高松支部で開催されます。

1. 開会の挨拶(弓削支部長)
2. 会長挨拶
3. 議事
 - (1) 令和5年度行事報告
 - (2) 令和5年度会費納入状況と分担金報告
 - (3) 令和5年度会計報告
 - (4) 令和6年度行事計画
 - (5) 令和6年度予算案
 - (6) 役員と会則の改正
4. 報告事項
 - (1) 弓削丸竣工
 - (2) しらすな64号原稿依頼
 - (3) その他

5. 閉会の言葉（次年度総会担当（高松）代理松山支部長）



■同窓会事務局

電話（学校代表） 0897-77-4606

FAX 0897-77-4692

メール info@yuge-kosen.com

同窓会事務担当 田房 友典 (I-2 期)

■令和6年度総会ゴルフコンペを開催

令和6年6月23日（日）、京覧カントリークラブにおいて、令和6年度総会ゴルフコンペが開催されました。

梅雨時期のコンペで、終始雨に打たれるコンディションでの実施となりました。コンペは26名の同窓生や白砂会メンバーの皆様にご参加いただき、東コースを8:30から7組が順にスタートし、午後からは中コースへと進みました。皆さまのおかげをもちまして、参加者全員が無事終えることができました。

表彰式も同カントリークラブで行い、栄えある優勝者には竹田様が輝きました。以下、3位までに入賞した方のみご紹介いたします。

	氏名	ネット
優勝	竹田 英樹 (E45)	72.2
準優勝	桑田 収三 (N59)	73.6
第3位	得能 英夫 (N66)	73.8



海技教育機構

○ 乗船実習

令和6年4月から6月までの3ヶ月間、高等専門学校6年生の実習生は海王丸（機関科）、大成丸（航海科）および青雲丸（航海科・機関科）において、それぞれ乗船実習を行いました。

海王丸では、昨年度に続きシンガポールへの遠洋航海も実施しています。神戸出港に際しては、海事局長を始め多くの来賓や見送りに訪れた方々の前で、実に6年ぶりに登檣礼を実施することができました。

遠洋航海中は、帆装訓練、発電機原動機整備実習やブラックアウト実習などを実施しました。また、シンガポール港においては、POCC（Port Operations Control Center シンガポール港湾運用管理センター）など船舶の管制施設を見学し、知見を深めることができました。内地航海中では得がたい経験を通じて、実習生は大きく成長できたようです。海王丸は6月5日、無事に東京港に到着しました。

青雲丸では、5月の広島沖仮泊中においてピストン抜き実習を実施しました。機関科実習生は停止した主機関の分解整備という、大きな作業を通じて、知識と技能を習得することができたようです。

高等専門学校6年生の実習生は、上記の実習に続いて、7月から9月にかけて銀河丸および青雲丸にそれぞれ乗船し、最後の3ヶ月の実習に臨みます。



海王丸出航式（登檣礼）



青雲丸機関室（ピストン抜き）

○ 令和 6 年 7 月から 9 月までの乗船実習の予定は次のとおりです。

< 日本丸 >

海上技術短期大学校（清水）2 年
 7/1 乗船、7/4 神戸発、7/12～7/16 大井川、
 7/25～7/29 宮古、8/1～8/5 函館、8/9～8/13 石
 狩湾新港、8/23～8/27 三田尻中関、9/7 東京
 着、9/10 下船

< 海王丸 >

大学（東京）（航海）1 年
 7/21 乗船、7/23 東京発、7/30～8/3 室蘭、8/9
 ～8/13 敦賀、8/19 神戸着、8/20 下船
 大学（神戸）（航海・機関）3 年
 民間六級（航海）
 8/22 乗船、8/24 神戸発、9/2～9/6 函館、9/10
 ～9/14 横浜、9/20 東京着、9/21 下船

< 大成丸 >

海上技術学校 4 年
 海上技術短期大学校（小樽）（航海専科）2 年
 7/1 乗船、7/3 東京発、7/12～7/16 神戸、7/22
 ～7/26 門司、8/2～8/6 広島、8/17～8/21 神戸、
 8/30～9/3 高松、9/9 東京着、9/10 下船



大成丸下船式

< 銀河丸 >

高等専門学校（航海・機関）6年
海技大学校（航海専修・機関専修）2年
7/1 乗船、7/3 東京発、7/13～7/18 室蘭、7/22
～7/27 函館、8/5～8/9 東京、8/22～8/27 シン
ガポール、9/7 神戸着、9/10 下船

< 青雲丸 >

大学（東京・神戸）（航海・機関）乗船実習科
高等専門学校（航海）6年
海上技術短期大学校（清水・宮古）2年
7/1 乗船、7/3 大阪発、7/12～7/17 東京、7/23
～7/27 室蘭、8/5～8/10 函館、8/17～8/21 小
樽、8/30～9/3 大阪、9/9 神戸着、9/10 下船

（天候等の都合により変更する場合があります）
今後ともJMETSへのご支援をよろしくご
申し上げます。

○ 賛助会員制度のご案内

持続的なご支援を賜るために賛助会員制度
を運用しております。

個人賛助会員 1口 5千円

団体賛助会員 1口 5万円

※ 海技教育機構賛助会費は、一般寄附金とし
て特定公益増進法人への寄附にあたり、所
得税・法人税の優遇措置の対象となります。
賛助会員様には JMETS が実施する行事の情
報提供や、JMETS オリジナルグッズ送付など
の特典をご用意しております。

画像は新規ご入会の会員様へのプレゼント
セットです。（トートバッグは4種類の中から
お選びいただけます。）ご継続いただく会員様
へは毎年新たなプレゼントグッズをご用意し
ております。

WEB 上のお申込みフォームから、直接お申
込みいただくことができます。

JMETS の活動内容にご賛同いただき、賛助
会員にご入会くださいますようお願い申し上
げます。

賛助会員制度のご案内

<https://www.jmets.ac.jp/donation/o4qt2d00000002ey.html>



賛助会員 WEB お申込みフォーム



賛助会員制度のご案内



JMETS オリジナルグッズ

【 企画調整部企画課 松島 功記 】

参議院議員(比例代表 全国区)

赤池まさあき

～国づくり、地域づくりは、人づくりから～



日々勉強!
結果に責任!

28

学校との連携強化を推進! 全国の人材育成推進協議会を活用!

我が国は海洋国家であり、それを担う海事産業は、国の基盤、国益に資する産業群です。人口減少社会、人手不足時代の中で、担い手を育成し確保することは最重要課題です。

◎海洋教育の推進を

令和六年六月十五日、山形県酒田市民会館で、海洋教育推進プロジェクト第二十八回会合を開催。冒頭、山形県と酒田市に対して、国や海事団体が作成した資料をまとめた「海事文庫」を



小中高校に贈呈し、その後、国や地方、高校、各海事団体と意見交換をしました。

本会合は、平成二十八年(二〇一六年)、私の呼びかけに関係者のご賛同を頂く形で、官民連携組織として始まりました。その年の七月の海の日には、安倍総理(当時)から「二〇二五年までに全ての市町村で海洋教育が実践されることを目指す」との宣言が出され、翌年、平成二十九年(二〇一七年)には、長年、海事団体から強くご要望を頂いていた学習指導要領への記載をめぐり、皆様とともに活動を強化して取り組んだ結果、見直しを勝ち取り、小中高の教科書における海洋関係の記述の大幅拡充に繋がりました。

一方、各地の教育委員会との意見交換も重ねてきており、今回の会合では、酒田市内の小中学校のみならず、県立高校段階での海洋教育推進についても、取組み状況を説明頂きました。県立酒田東高校の生徒の海洋研究の発表や県内唯一の加茂水産高校の現況についても、お話を伺いました。

参加した高校生は、「港町酒田に生まれ育ちながら、これだけ多種多様な海事産業があることを初めて知りました」との感想を述べていました。



また、加茂水産高は、少子化・人口減少社会の影響を受け、生徒募集に苦慮しているとのこと。官民連携の中で具体的な協力関係を構築できればと思っています。

今後も、全力で海洋拠点各地での海洋教育を推進し続けたいと思います。

(裏面に続く)



赤池誠章(あかいけまさあき) 昭和三十六年山梨県生まれ。明治大学卒。松下政経塾出身。自動車整備士養成の専門学校長を経て、衆議院議員に初当選。平成二十五年の参院選比例代表(全国区)で国政復帰。国土交通委員会理事、文部科学大臣政務官、文部科学委員長、自民党文部科学部会長(三期)、内閣府副大臣等を務め、現在、党政務調査会副会長(国土交通・内閣担当)、海事振興連盟常任理事、海事立国推進議連事務局長、海洋教育推進プロジェクト座長。参議院議員二期目。

《国会事務所》

〒100-8962
東京都千代田区永田町2-1-1
参議院議員会館524号
TEL: 03-6550-0524
FAX: 03-6551-0524
HP: <https://www.akaike.com>

【自由民主党 党員募集】

自民党では党員を募集しています。詳細は事務所まで!

参議院議員(比例代表 全国区)

赤池まさあき

～ 国づくり、地域づくりは、人づくりから～



日々勉強!
結果に責任!



海洋国家の担い手を育成する拠点である商船高専五校。各校の練習船はどれも二十年以上使用され、老朽化が進んでおり、その更新が課題となっていました。練習船での実習は、船員教育の要であり、最新の機関や設備を用いた教育の重要性や、女子学生の増加に伴う船内の環境整備、そして、昨今の災害が頻発化する状況を踏まえ、地域の防災拠点としての新たな必要性も要望として出されていました。

ともに「商船高専五校の練習船更新と教育の充実」に向けての集会を開催し、決議をいたしました。集会后、財務省と文部科学省への練習船更新の要望活動も行いました。

その結果、関係各位の長年のご尽力により、商船高専五校の練習船の船齢順に計画的な更新の方針が決まりました。

まずは、①大島商船高専「大島丸」の設計と建造がなされ、進水式を経て、令和五年三月十九日に学校に引き渡されました。



その次に、②弓削商船高専「弓削丸」の設計と建造が行われ、進水式の後、令和六年三月二十二日に学校へ引き渡されました。新練習船は、各高専の要望

を十分聞き取り、船体を二倍の大きさとし、最新の機器を導入して教育環境を整え、また、今後増える予定の女性高専生に配慮した船室の配置や、防災拠点となるよう基本設計が共通化されました。

一方、独自の部分もあり、大島丸は電気推進船、弓削丸は学校と即時で通信できる画像教育設備が設置されています。

関係各位の熱いご要望を受け、予算を獲得して、建造まで支援をしてきた私としては、両校の進水式や竣工式に出席させて頂いた際、大変感慨深いものがありました。

き渡しとなります。さらに、予算確保が前提ですが、④富山高専「若潮丸」、⑤広島商船高専「広島丸」が順次更新される予定となっています。

この練習船更新を契機に、海洋教育推進と高専生の確保、各校が立地する地方の創生と防災強化にも繋げていきたいと思っております。

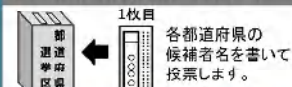
今後「海洋国家」日本の繁栄を目指し、海事振興に全力を尽くしてまいります。何卒ご指導賜りますようお願い申し上げます。
(赤池まさあき)



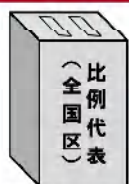
参議院選挙の投票方法

① 都道府県選挙区

「2回」投票します
① 都道府県選挙
② 比例代表選挙



② 比例代表(全国区)選挙

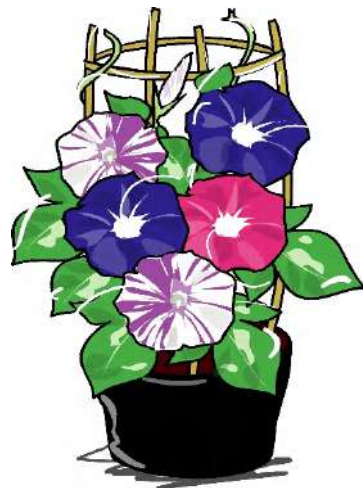


全国どこからでも、比例区の候補者名を書いて投票できます。(政党名でも可)

比例代表選挙は、政党名およびその政党に属する候補者個人への投票数の合計に応じた各政党への議席配分から、候補者名での投票数の多い順に当選者が決まる非拘束名簿式です。

本部・支部だより

- 2024/3/15 帆船日本丸記念財団村田船長来会
(飯島)
- 2024/3/16 2023 年度第 3 回理事会開催
(千代田区万世橋区民館)
- 2024/3/18 海洋教育推進プロジェクト委員会 (参議員会館) (加藤)
- 2024/3/21 日本殉職船員顕彰会評議員会
(加藤)
- 2024/3/23 練習船・弓削丸竣工記念式典・祝賀会 (広重)
- 2024/3/26 HTW 調査検討に関する専門委員会 (加藤)
- 2024/4/4 大島商船高等専門学校入学式
(広重)
- 2024/4/19 2023 年度における会計及び業務並びに公益目的支出計画の実施状況監査
- 2024/4/20 2024 年度第 1 回理事会開催
(千代田区万世橋区民館)
- 2024/5/9 戦没・殉職船員追悼式実行委員会 (飯島)
- 2024/5/15 第 51 回戦没・殉職船員追悼式
(神奈川県横須賀市 県立観音崎公園) (広重、飯島)
- 2024/5/19 第 41 回横浜港カッターレース
(広重・加藤)
- 2024/5/28 日本海難防止協会 第 1 回通常理事会 (広重)
- 2024/6/6 海技教育財団理事会 (広重)
- 2024/6/10 海技教育財団奨学生選考委員会
(飯島)
- 2024/6/13 衛藤征士郎先生 Early Bird Seminar (広重)
- 2024/6/14 参議院議員赤池誠章先生事務所にて面談 (広重・酒迎)
- 2024/6/15 2024 年度通常総会開催
(日本教育会館)
- 2024/6/15 2024 年度第 1 回臨時理事会開催
(日本教育会館会議室)
- 2024/6/24 鳥羽商船高等専門学校古山雄一校長・窪田祥朗商船学科長来会
(飯島)
- 2024/7/9 大島商船高等専門学校藤本隆士校長面談 (広重・酒迎)
- 2024/7/19 大島商船高等専門学校関門支部会議 (広重)
- 2024/7/23 三菱 UFJ モルガンスタンレー証券来会 (広重・徳嶋・飯島)
- 2024/7/24 衛藤征士郎先生 Early Bird Seminar (広重)
- 2024/7/27 大島丸小倉入港・オープンキャンパス&大島丸体験航海 (広重)
- 2024/7/30 大島丸三菱下関入渠・歓迎会
(広重)



賛助会員名簿

2024年4月現在

賛助会員の方々にご支援とご協力をいただいております。（一社）全日本船舶職員協会

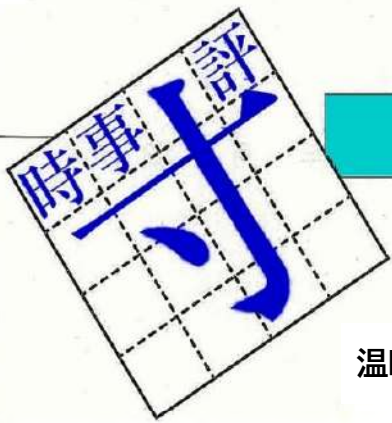
賛助会員名簿 2024年4月現在

広島商船校友会	有限会社システムエンジニアリング
弓削商船高専同窓会	日本ガスライン株式会社
北斗会事務局	名阪船舶株式会社
大島商船高専同窓会	戸田汽船株式会社
鳥羽商船同窓会	株式会社商船三井内航
株式会社コトラスシステム	菅原汽船株式会社
北星海運株式会社	神戸マリーナ工業株式会社
山友汽船株式会社	株式会社マリントランスシステム
株式会社B&Sエンタープライズ	正栄汽船株式会社
栗林商船株式会社	かもめプロペラ株式会社
名古屋メッキ工業株式会社	東興海運株式会社
八馬汽船株式会社	鹿児島船舶株式会社
大四マリン株式会社	摂予汽船株式会社
NSユナイテッド内航海運株式会社	株式会社NMDグループ
太洋産業貿易株式会社	ダイハツディーゼル株式会社
旭運輸株式会社	三陸運輸株式会社
上野トランステック株式会社	兵機海運株式会社
株式会社 ウシオ	協同商船株式会社
日本栄船株式会社	日本油化工業株式会社
宮城マリンサービス株式会社	株式会社アイエスシー
株式会社ハマテクノサービス	株式会社ボルテック

2024 年度会費納入者芳名帳

2023 年 12 月 12 日～2024 年 7 月 31 日現在

2023年度会費	永井 達朗	山下 育孝	溝渕真太郎
終身会員	梶原 拓海	沖原 邦彦	杉野 智
亀山 道義	近藤 拓斗	片渕 敏之	宇都宮 直人
2024年度会費	今城 冬哉	山岡 宣之	田辺 光
6月個人入金	工藤 善己	宇佐見航一	古田 輝
再入会	竹嶋 琳香	徳山 公彦	西浦 周
藤原 隆征	田中 咲楽	福井 悟	中井 冴風
6月	平野 有輝	伊賀 勇治	満井 青空
共栄タンカー (株)	進藤 弘和	児玉 賢志	(株) 商船三井
佐藤 好司	藤原 侑大	間島 崇夫	さんふらわあ
外谷 正彦	7月	金子 大輔	富山 幸弥
石田健一郎	(株) 商船三井	大宅 理志	薄井 雄基
浦田 建	山口 智彦	上井 博明	清水 洋平
中野 寛士	田村 孝夫	百合野 剛	楠井 瞳也
岩城 音芽	和田 雅人	平木 恵介	世良 駿汰
船津 心佑	藤井 仁	酒井 勇樹	案浦 直哉
出光タンカー (株)	枝次 真治	濱松 直也	7月個人入金
野間 虎三	中塚 達也	佐々木 翔輝	種谷 収
瀬戸口義典	朝日 健二	漁野 智洋	23年度会費
有馬 功人	綱島 毅	廣村 匡俊	&終身会員
中坂 勝史	滝浦 文隆	濱田 祐司	大類 健三郎
山本 一成	竹原 敏宏	松下 薫	
山友汽船 (株)	栗原 誠	河本 優	
望月 正信	橋口 靖生	中尾 拓弥	
松林 祐馬	萩原 栄二	阿部 誠	
北島 章市	新田 真一	梅田 尚宏	
川渕 仁	山本 真丈	染矢 真行	
大坪 鴻介	鈴木 直也	田川 寛大	
仁井岡友康	寺西 尚平	渡邊 真史	
逢坂 武	迫間 利紀人	早柏 隆太	



温暖化考察

本稿が皆さんへ届く頃は恐らく猛暑の盛りだと思います。ただ本年は（も？）7月上旬には猛暑日を記録し、地球温暖化のトピックが姦しいのではと思います。地球温暖化といえば皆さんは「ヒートドーム」現象という言葉をご存じですか？「ヒートアイランド」なら知っているという方も多いでしょう。この「ヒートドーム」現象とは、高気圧が停滞し一帯に蓋をかぶせたような状態がしばらく続く気象現象だそうです。現在夏である北半球のアメリカ・ヨーロッパ大陸で発生しており、気温 38～50℃を記録、山火事発生や熱中症患者多発の原因と言われているものです。本来西から東へ移動する高気圧

はジェット気流の蛇行で動きが弱まり、ある地域で停滞、そうすると高気圧内では雲の発生が少ないため太陽光が地表に直接達し地域一帯の気温が上昇する訳です。元々停滞型の夏の太平洋高気圧はこの典型的なのかもしれません。地球はその誕生以来、公転軌道、地軸の傾きのため氷河期と間氷期を 100 万年単位で繰り返してきましたが、間氷期である現代は過去の間氷期に比べ平均気温は高く、その原因の一つは人類による温室効果ガスが大きいと言われています。そのため我々が運航する船も NOx、SOx 等の排ガス規制を受けている訳ですが、一方である気象学者によると硫黄等空気中の雲発生のコアとなる物質が減ると、太陽光が直接届く割合が増える、ヒートドームが発生しやすくなると言います。アフリカ・サハラ砂漠の砂塵はヨーロッパの寒・温暖化に影響大と…排ガス規制が逆の現象を招く可能性もあるわけです。気象・海象は自然界のバランス、AI やロボットではコントロールできません。将来の大きな難しい問題です。

表紙写真 MV ORIENTAL BREEZE 八馬汽船株式会社 提供

本船の概要は、船種 CHIP 新来島どつく（豊橋）5877（豊橋 3701） 主要目 全長（LOA）189.94m 型幅（B）32.20m 型深（D）21.90m 夏期満載喫水 11.023m 総トン数（G/T）36,461 トン 純トン数（N/T）18,888 トン 重量トン数（K/T）43,673 トン 満載排水量 53,275 トン

編集後記

地球上に降り注ぐ太陽光のエネルギー量は 2 時間で 6×10^{20} の 20 乗 J（ジュール＝熱量を示す単位）にも達し、それだけで全世界の年間エネルギー消費量（石油換算で約 140 億トン）をまかなえる計算になるそうです。太陽光発電を半世紀以上にわたり支えたのは、シリコンを材料とする太陽電池です。建物の屋根や空き地で見かけるパネル式のもので、シリコン型は強い光を当てないと十分に発電できないため、パネルを日差しがよく当たる南向きに設置します。また割れやすいので分厚いガラスで保護する必要があります。パネル全体が大型化し重く、設置には広く平らな場所を必要とするというデメリットがあります。いま、太陽電池として世界各国の注目を集めているのが、薄くて軽く、曲げられる日本発のペロブスカイト（perovskite）太陽電池です。日本は国土が狭いうえ、山間部が多く、シリコン型は設置場所が限られますが、ペロブスカイト型は軽く曲げられるため、建物の窓や壁面、ドローンや車体の曲面といった場所に取り付けられます。エネルギー変換効率も高く、曇りや雨のように光が弱い条件下でも発電できます。低コストで発電コストが抑えられ、材料が日本国内で調達可能、色を変えられるなどです。開発者でノーベル賞候補としても知られる宮坂力（みやさかつとむ）桐蔭横浜大学特任教授は、日本が各国との開発競争に勝ち抜くには、官民を挙げて積極的な事業参画と投資の拡大を図ることが大切だと強調しています。ペロブスカイト太陽電池の市場を日本が勝ち取るのか？海外メーカーにシェアを奪われてしまうのか？（飯島・記）

全船協 会報 156 号 夏季号

2024年 8 月発行

◇ 発行所：一般社団法人 全日本船舶職員協会 ◇ 編集兼発行人：徳嶋 明宏
本 部：〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町三丁目 7 番 12 号 清話会ビル 2 階 B 室
TEL 03-3230-2651 FAX 03-3230-2653

E-mail:honbu@zensenkyo.com URL:<https://www.zensenkyo.com>

神戸支部：〒650-0015 神戸市中央区多聞通二丁目1番1号 多聞プラムビル2階 山友汽船(株)内
TEL 078-958-6815 FAX 078-371-5520

E-mail:kobe@zensenkyo.com



Tokyo Bay Licensed Pilots' Association

東京湾水先区水先人会

会長 足立和也

〒231-0023 横浜市中区山下町1番2 パイロットビル
(代表・総務部) TEL(045) 650-3180 FAX (045) 663-4811
(オペレーション部) TEL(045) 681-4081 FAX (045) 681-4090
TEL(045) 681-4091
URL : <http://www.tokyobay-pilot.jp>

株式会社 コトラシステム

代表取締役 望月正信

〒103-0022 東京都中央区日本橋室町 1-12-13
日本橋鋸佐ビル3階

電話 (03) 3245-6975
FAX (03) 3245-6980
E-mail: cotrasystem@nifty.com



内海水先区水先人会

Licensed Inlandsea Pilots' Association

会長 末岡 民行

〒650-0034
神戸市中央区京町72番地 新クレセントビル3階
電話(078)332-7191 FAX(078)391-7157
E-MAIL info@inlandsea-pilots.jp

関門水先区水先人会

会長 前原 武人

〒801-0841 北九州市門司区西海岸1丁目2番13号
電話 (093) 332-2384(代)

船舶、船舶装備器具及び部品の販売、輸出。作業船の
賃貸船舶修理、検査工事の請負及びコンサルタント。

K2 シップマネージメント株式会社

〒220-0023 神奈川県横浜市西区平沼1-13-14
パークノウェア横浜・壱番館306

電話 : 045-290-6082 FAX : 045-290-6916
E-mail : kani@ksh.biglobe.ne.jp



名阪船舶株式会社

代表取締役 高橋 宏之

〒552-0022 大阪市港区海岸通3丁目2番2号

TEL 06-6572-6221 FAX 06-6574-0635

<http://www.meihansenpaku.co.jp>



Marine Trans System Co., Ltd.

株式会社マリントランスシステム

代表取締役社長 小林 悠

〒104-0031 東京都中央区京橋一丁目1番5号
セントラルビル2階 (fabbit内)

電話 050-3187-3610(代) FAX 03-6629-6290



伊勢三河湾水先区水先人会

“安全と信頼を提供”

会長 高尾 幸徳

〒455-0032 名古屋市港区入船二丁目4番6号
名港ビルのインク 17階

電話 : (052) 304-8311 FAX : (052) 304-8312

清水水先区水先人会

会長 日比野 雅彦

副会長 鈴木 泰治

〒424-0922 静岡市清水区日の出町10番80号
清水マリンターミナル3F

電話 (054) 352-2191
FAX (054) 351-0527



■ センポスの宿・健康診断 ■

一般財団法人

船員保険会

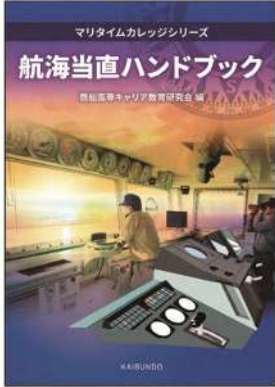
会長 霜鳥 一彦

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1-5-6
SEMPOSビル 6・7階

電話 (03) 3407-6061 FAX (03) 3407-6597
URL <https://www.sempos.or.jp>

<マリタイムカレッジシリーズ>

航海当直ハンドブック



航海士にとって基本の職務である「航海当直」について解説。航海当直や停泊当直時における職務内容をはじめ、出入港作業、錨泊作業、非常時の対応について、カラー写真を多用し、わかりやすくまとめた。航海士として必要不可欠な知識・技能を定着させることが可能。

商船高専キャリア教育研究会 編

A5判 192頁 定価 2,860円(税込)

〒112-0005 東京都文京区水道 2-5-4
TEL 03-3815-3291 FAX 03-3815-3953

海文堂出版

<https://www.kaibundo.jp/>
e-mail: hanbai@kaibundo.jp

宿泊設備(海員会館)のご案内

ご宿泊・お食事・ご会合に、どなたでもご利用頂けます。

ナビオス横浜



※写真はイメージです。



1階 レストラン
RESTAURANT
Ocean

3階 バーラウンジ
Seamen's Club



ナビオス横浜
International Seamen's Club & Inn
TEL : (045) 633-6000

川崎海員会館 TEL : (044) 233-5896
| エスカル横浜 TEL : (045) 681-2141
| エスカル神戸 TEL : (078) 341-0112

一般財団法人日本船員厚生協会(045)319-4506
ホームページ <https://www.jswa.or.jp>

会報「全船協」への投稿記事を募集中

全船協の広報委員会では会報「全船協」の内容の充実を図るべく日々努力しております。会員・非会員を問わず多くの皆様から幅広く「投稿記事」を募集いたします。内容は乗船中、陸勤中、COVID-19による乗船下船エピソード、海事関連企業に勤務されている勤務内容の紹介や体験談、趣味、地域活動、ふるさと自慢など、何でも結構です。原稿締め切り日をとくに設けておりませんので、原稿を事務局までお送りください。原稿は横書き、ワードなどで作成、メールに添付して送ってくださっても結構です。

詳細問い合わせ先：〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町三丁目 7-12
清話会ビル2階B室

(一社)全日本船舶職員協会 事務局 飯島 寿
TEL:03-3230-2651 FAX:03-3230-2653
E-mail:honbu@zensenkyo.com